

科目名	医療倫理
授業形態	講義
開講時期	1年前期
時間数・単位	4時間 2単位(堀川先生の医療倫理と歯科衛生士概論と合わせて2単位)
授業担当者	伊地知 博史

学習目標 伝統的な医の倫理から新しい医の倫理、医療従事者の基本的義務、歯科医療に関連する権利と義務および歯科衛生士の社会的使命について学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科衛生士と医療倫理	歯科の歴史について、医の倫理について	伝統的な医の倫理の特徴や医療倫理の概略について理解する
2	医療従事者の心構え	医療従事者としての歯科衛生士の心構え	歯科衛生士としての必要な倫理観や現場を取り巻く人間関係を理解する

評価方法 レポートにより評価を行う

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「歯科医療倫理(第2版)」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	医療倫理
授業形態	講義
開講時期	1年前期
時間数・単位	6時間 2単位(伊地知先生の医療倫理と歯科衛生士概論と合わせて2単位)
授業担当者	堀川 清一

学習目標 新しい医の倫理の原則を学ぶ

歯科衛生士に求められる職業人としての心構えを学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	インフォームド・コンセントとQOLの概要	インフォームド・コンセント・QOLについて	インフォームド・コンセントの定義と発生理由を理解する
2	医療現場における行動科学、チームアプローチ	行動科学、チームアプローチ	医療従事者の基本的行動を理解する
3	患者理解のためのコミュニケーションについて	医療現場におけるコミュニケーション	患者中心の医療を理解する

評価方法 筆記試験により評価を行う

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「歯科医療倫理(第2版)」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯科衛生士概論
授業形態	講義
開講時期	1年前期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	前田 みい子

学習目標 ①社会から求められる医療人としての歯科衛生士像を学ぶ

②歯科医療と歯科衛生士の役割について学ぶ

③将来の自分の歯科衛生士像を創造できる

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科衛生学とは	歯科衛生学の定義、歯科衛生と健康	歯科衛生学の定義、歯科衛生と健康との関わりについて理解する
2	歯科衛生の歴史	歯科衛生士誕生までの歴史	歯科衛生士が誕生して現在に至るまでの流れを歯科衛生士法と関連づけながら理解する
3	歯科衛生士法と歯科衛生業務	歯科衛生士の業務内容と歯科衛生士法	歯科衛生士の業務独占と名称独占の違いについて理解する
4	歯科衛生士法と歯科衛生業務	歯科衛生士と安全管理	安全管理の必要性和法的責任について理解する
5	歯と口の健康と疾病・異常	口腔機能と歯の疾病	口腔機能として備わっているものと歯の疾患及び歯周組織疾患について理解する
6	歯と口の健康と疾病・異常	歯列と咬合	正常歯列及び咬合とその異常について理解する
7	歯科衛生業務	歯科衛生士に特に必要な知識・技能	歯科衛生士に必要な知識・技能とは何かを理解する
8	歯科衛生業務	歯科衛生士の業務の展開	職業人としての心構えについて理解する
9	歯科衛生業務	歯科衛生ケアプロセス	歯科衛生ケアプロセスの概要と業務記録(POS・SOAP含む)について理解する
10	チーム医療	歯科保健医療保健にたざさわる人々	チーム歯科医療、保健・医療・福祉専門職の業務、他職種との連携について理解する

評価方法 定期試験で60点以上の得点を合格とする

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業である

科目名	歯科臨床概論
授業形態	講義
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	瀬戸口 尚志

学習目標 実際に歯科で行われている臨床の基本的な知識を身につける

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科診療とは	歯科臨床の場 歯科診療の場と関る人々 歯科診療の対象者	歯科診療の概要について理解する
2	歯科診療所	歯科診療所のスタッフ 歯科診療所の紹介 歯科診療所における安全管理	歯科診療所の概要について理解する
3	歯科診療所における業務	歯科診療所全体に関わる業務 歯科診療所における歯科診療と歯科衛生業務 歯科診療所の1日	歯科診療所における業務について理解する
4	ライフステージと歯科診療	ライフステージと歯科診療	ライフステージと歯科診療の概要について理解する
5	歯科診療で行うことー主な診療の流れー	歯科診療で行うことー主な診療の流れー	主な診療の流れの概要について理解する
6	診査・検査・前処置	バイタルサインの確認 画像検査 歯周組織の検査 痛みのコントロール	診査・検査・前処置の概要について理解する
7	小児歯科	小児歯科とは 先天異常への対応 う蝕予防処置 小窩裂溝充填塞(フィッシャーシーラント) フッ化物歯面塗布	小児歯科の概要について理解する
8	矯正歯科	不正咬合と矯正歯科医療 矯正歯科治療の概要	矯正歯科の概要について理解する
9	口腔外科	口腔外科とは 外傷の治療 抜歯 普通抜歯 智歯の抜歯 口腔粘膜疾患の処置	口腔外科の概要について理解する
10	歯科保存	歯科保存とは 象牙質知覚過敏症 歯冠部う蝕 根面う蝕 歯内療法 歯のホワイトニング	歯科保存の概要について理解する
11	歯周治療	歯周治療とは 歯周病と全身疾患 歯周基本治療(TBI, SRP) 歯周外科治療 メインテナンス	歯周治療の概要について理解する
12	歯科補綴	歯科補綴とは 義歯の製作 クラウン・ブリッジ 有床義歯	歯科補綴の概要について理解する
13	障害者歯科・高齢者歯科	障害者歯科・高齢者歯科とは 摂食嚥下障害への対応 全身疾患への対応 周術期の対応 歯科訪問診療	障害者歯科・高齢者歯科の概要について理解する
14-15	歯科臨床の実際	歯科の臨床症例の提示と解説	実際に行われている歯科臨床の理解を深める

評価方法 定期試験で60%以上の得点を合格とする

参考図書等

・「歯科衛生士のための歯科臨床概論」松井恭平・森崎市治郎・白鳥たかみ・船奥律子編(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯科保存学・保存修復学
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	西谷 佳浩・西谷 登美子・宮下 桂子

学習目標 歯科治療における歯科保存学的位置づけを理解する。また、歯の保存治療における保存修復学的位置づけを理解し、齶蝕を主とした歯の硬組織疾患の原因と処置法(使用する機器/歯科材料を含む)を理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科保存学概論	歯科治療における歯科保存学の意義と種類	保存治療学における保存修復学の意義を理解する
2	歯の硬組織疾患1	齶蝕の診断と治療法	齶蝕の診断と治療法について理解し説明できる
3	歯の硬組織疾患2	非齶蝕性硬組織疾患の原因と治療法	非齶蝕性硬組織疾患の原因と治療法について理解し説明できる
4	窩洞	窩洞の分類、窩洞の条件	窩洞の名称と意義を理解し説明できる。窩洞の写真や模式図を見て、ブラックの窩洞のどのクラスに相当するかを理解し説明できる
5	修復のための前準備	歯間分離・隔壁と歯肉排除の特徴	歯間分離・隔壁と歯肉排除の種類と用途について理解し説明できる
6	切削器具	回転切削器具と手用切削器具	回転切削器具と手用切削器具について理解し説明できる
7	歯髄保護	歯髄刺激と歯髄保護法	歯髄刺激の原因と歯髄保護法について理解し説明できる
8	保存修復法	保存修復法の種類と特徴	保存修復法の種類と特徴について理解し説明できる
9	成形修復1	コンポジットレジンの特徴	コンポジットレジンの特徴について理解し説明できる。光重合型レジンと化学重合型レジンの違いについて理解し説明できる
10	成形修復2	コンポジットレジン修復の特徴と治療法	コンポジットレジン修復における接着システムについて理解し説明できる
11	成形修復3	グラスアイオノマーセメント修復の特徴と治療法	グラスアイオノマーセメント修復の特徴と治療法について理解し説明できる
12	メタルインレー修復	メタルインレー修復の特徴と治療法	メタルインレー修復の特徴と治療法について理解し説明できる
13	審美修復1	レジンインレー修復、セラミックインレー修復およびラミネートベニア修復の特徴と治療法	レジンインレー修復、セラミックインレー修復およびラミネートベニア修復の特徴と治療法について理解し説明できる
14	合着用セメント	各種合着用セメントの特徴と使用法	各種合着用セメントの特徴と使用法について理解し説明できる
15	漂白	各種漂白法の特徴と治療法	各種漂白法の特徴と治療法について理解し説明できる

評価方法 小テストと定期試験を総合し60%以上の得点

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯内療法学
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	西谷 佳浩・勝俣 愛一郎・永山 祥子

学習目標 歯内療法を必要とする疾患につきものの痛みや悩みの開放について、その苦痛の原因や一連の流れを理解することで患者への説明、担当医のアシストを適切に行えるように、歯内療法の現症と治療法を習得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯内療法学の概要(1)	歯内疾患の概要と原因を説明する	歯内療法について理解し、歯内療法の流れを理解する
2	歯内療法学の概要(2)	歯髄疾患と根尖性歯周疾患の分類と症状およびその処置法を説明する	歯髄疾患と根尖性歯周疾患の分類と症状およびその処置法を理解する
3	歯髄保存療法	歯髄保存療法の分類とその処置法について説明する	歯髄保存療法の分類とその処置法について理解する
4	歯髄の除去療法	歯髄の除去療法について、その分類と術式について説明する	歯髄の除去療法について、その分類と術式について理解する
5	根管治療	根管治療の概念およびその術式について説明する	根管治療の概念およびその術式について理解する
6	根管充填	根管充填の術式について説明する	根管充填の術式について理解する
7	外科的歯内療法	外科的歯内療法について、その種類と術式について説明する	外科的歯内療法について、その種類と術式について理解する
8	歯の外傷、安全対策	歯の外傷の分類と処置法および偶発事故に対する安全対策について説明する	歯の外傷の分類と処置法および偶発事故に対する安全対策について理解する
9	歯内療法における歯科衛生士の役割	歯内療法における歯科衛生士の役割について説明する	歯内療法における歯科衛生士の役割について理解する
10	器具・器材	実習室にて、歯内療法に用いる器具・器材を説明する	歯内療法に用いる器具・器材を実際に見て使い方を理解する

評価方法 定期試験で60%以上合格

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯周療法学
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	野口 和行

学習目標 歯周病は歯を支持する組織の炎症性疾患であり、歯を失う主要な原因の一つである。また近年、歯周病は糖尿病などの様々な全身的疾患に関係していることが明らかにされている。歯周治療は歯周病の治療および予防によって生涯にわたって健康な歯周組織を有する歯と咬合を機能的に維持し、国民の健康に寄与することを目的とする。このために、歯周病の病因、治療法、予防法を十分に修得することを目標とする

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯周治療概論・歯周組織の構造	健康な歯周組織の構造と機能	歯周組織の構造と機能を説明できる
2	歯周病の病態、分類	歯周病の臨床的病態および歯周病分類	歯周病の臨床的病態および分類を説明できる
3	歯周病の病因	歯周病の病因(細菌学的因子、宿主因子、環境因子)	歯周病の病因、リスクファクターを説明できる
4	歯周病の検査・診断	歯周病の検査・診断	歯周病の種々の検査、診断を説明できる
5	歯周医学	歯周病と全身疾患	歯周病と全身疾患との関連を説明できる
6	治療計画	歯周治療計画	歯周治療の治療計画の立て方を説明できる
7	歯周基本治療1	ブラークコントロール	ブラークコントロールについて説明できる
8	歯周基本治療2	スケーリング・ルートプレーニング	スケーリング・ルートプレーニングについて説明できる
9	歯周基本治療3	咬合性外傷および習癖に対する処置	咬合性外傷および習癖について説明できる
10	再評価、薬物療法	再評価、薬物療法	再評価および薬物療法について説明できる
11	歯周外科治療総論	歯周外科処置総論	歯周外科処置の目的、分類、使用器材を説明できる
12	歯周外科治療各論1	歯周外科処置(切除療法)の目的、適応症、術式	歯周外科処置(切除療法)の目的、適応症、術式を説明できる
13	歯周外科治療各論2	歯周外科処置(再生療法および歯周形成外科)の目的、適応症、術式	歯周外科処置(再生療法および歯周形成外科)の目的、適応症、術式を説明できる
14	リハビリテーション・メンテナンス	咬合機能回復およびメンテナンス	咬合機能回復処置およびメンテナンスについて説明できる
15	インプラント周囲疾患	歯周病の疫学、インプラント周囲疾患	歯周病の疫学とインプラント周囲粘膜炎・インプラント周囲炎を説明できる

評価方法 定期試験(100点満点)で60点以上を合格とする

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「歯周病学(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
 ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯科補綴学
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	田中 生子

学習目標 歯科補綴治療の意義、目的、基礎知識を理解し、補綴装置の適応、製作法、補綴治療の中での歯科衛生士の役割や患者指導等を学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科補綴治療の意義と目的 補綴歯科治療の特徴と歯科衛生士の役割	歯科補綴治療の意義、目的、特徴 補綴治療における診療補助や患者への対応、口腔衛生指導	歯科補綴治療について理解し、補綴治療における歯科衛生士の役割を学ぶ
2	歯科補綴治療の基礎知識(1) 歯列弓の形態と対合関係 基準平面	歯列弓、咬合彎曲、咬合平面、対合関係 補綴歯科治療で重要な基準平面	歯列弓の形態とその対合関係、補綴治療で重要な基準平面を学ぶ
3	歯科補綴治療の基礎知識(2) 顎口腔系の機能 咬合様式と顎運動	咀嚼、嚥下、発音など顎口腔系の機能、咬合様式と顎運動	顎口腔系の機能や咬合様式、顎運動について学ぶ
4	歯の欠損に伴う障害と 補綴歯科治療	歯の欠損に伴う口腔内の変化と障害 補綴歯科治療に伴う合併症	歯の欠損に伴う口腔内の変化や障害、また補綴治療に伴う合併症について学ぶ
5	顎関節とその異常 補綴装置の種類と構造	顎関節の構造、機能と異常 クラウン、ブリッジ、有床義歯の適応	顎関節とその異常について学ぶ 補綴物の種類・特徴・適応を学ぶ
6	補綴歯科治療における 検査・診断	医療面接と診察、検査	補綴歯科治療における検査・診断について学ぶ
7	クラウン・ブリッジ(1)	クラウン・ブリッジ治療の流れ	クラウン・ブリッジの臨床での流れを学ぶ
8	クラウン・ブリッジ(2)	クラウン・ブリッジ治療時の歯科衛生士の役割	クラウン・ブリッジ治療時の業務や患者指導について学ぶ
9	有床義歯(1)	全部床義歯治療の流れ	全部床義歯の臨床での流れを学ぶ
10	有床義歯(2)	部分床義歯治療の流れ	部分床義歯の臨床での流れを学ぶ
11	有床義歯(3)	有床義歯治療時の歯科衛生士の業務と患者指導	有床義歯治療時の業務や患者指導を学ぶ
12	インプラント治療	インプラント治療の流れと患者指導	インプラント治療の流れと患者指導を学ぶ
13	補綴治療に用いる器材と 歯科技工	切削・研磨用、印象採得用、咬合採得用器材	補綴治療に用いる器材と補綴歯科治療における歯科技工を学ぶ
14	補綴治療に用いる器材の管理 と滅菌、消毒	口腔内で使用する器材の管理、口腔外で使用する器材の管理 感染予防対策	補綴治療に用いられる器材の管理を学ぶ
15	まとめと復習	まとめと復習	

評価方法 定期試験により判定する

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴(第2版)」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯科矯正学
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	木佐貫 聡

学習目標 歯科矯正学の基本的な知識と技術を修得するとともに、自ら考え行動に移す力をつける

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	矯正歯科治療の概要	歯科矯正学と矯正歯科治療の目的、矯正歯科治療の需要と必要性、矯正歯科治療のベネフィットとリスク、矯正歯科治療とチーム医療	歯科矯正学の目的、流れと必要性を理解し、歯科衛生士の役割を説明できる
2	成長・発育	身体の成長・発育、頭蓋および顎顔面の成長・発育、歯・歯列の成長・発育、口腔機能の発達	頭部、顎、顔面の成長発育、咀嚼・嚥下・発音機能の発達について理解し説明できる
3	正常咬合と不正咬合	正常咬合、不正咬合、不正咬合の分類、不正咬合の原因、不正咬合の予防	正常咬合と不正咬合について理解し、不正咬合の分類、原因、予防について説明できる
4	矯正歯科診断	矯正歯科治療における診断、矯正歯科診断に必要な検査、症例分析、非拔牙治療と拔牙治療	矯正歯科診断に必要な検査について理解し、分析の方法と意義を説明できる
5	矯正歯科治療と「力」-矯正力・顎整形力・保定	歯の移動と固定、歯の移動と組織反応、歯の移動様式、矯正力と顎整形力、保定	矯正力と移動する歯、固定源の関係を説明できる。歯が移動する際の歯周組織反応を説明できる
6	矯正装置	可撤式矯正装置、固定式矯正装置、機能的矯正装置	矯正装置の種類と分類について理解し、それぞれの矯正装置の使用目的と適応症について説明できる
7	矯正装置	上顎(側方)拡大装置、顎外固定装置、口腔習癖除去装置、保定装置	矯正装置の種類と分類について理解し、それぞれの矯正装置の使用目的と適応症について説明できる
8	矯正歯科治療の実際	上下顎前後の関係の不調和、上下顎の垂直の関係の不調和(過蓋咬合・開咬)	I級、II級、III級の不正咬合、過蓋咬合、開咬の治療の流れについて説明できる
9	矯正歯科治療の実際	成人矯正、口腔顎顔面の形成異常と変形	補助的矯正歯科治療と包括的矯正歯科治療の相違を説明できる。口唇裂、口蓋裂、顎変形症による咬合異常を説明できる
10	矯正歯科治療の実際	歯の埋伏と歯数の異常、矯正歯科治療時のトラブルへの対応、健康保険が適用される矯正歯科治療	埋伏歯や歯数異常に対する治療について説明でき、矯正治療によるトラブルの対応について説明できる
11	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割	矯正歯科診断にかかわる業務、矯正歯科診療時の業務	矯正歯科診断に必要な資料について説明できる。矯正歯科治療に用いる器具・材料について説明できる
12	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割	矯正歯科診療時の業務、矯正歯科患者と口腔保健管理	矯正装置装着時の補助について説明できる。矯正歯科患者の口腔衛生管理について説明できる
13	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割	口腔筋機能療法	口腔習癖の種類と不正咬合との関係について説明できる。口腔筋機能療法の訓練、指導について説明できる
14	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割	器材、資料、文書の管理	矯正歯科用器具・材料の洗浄、消毒・滅菌について説明できる。矯正器材の種類と取り扱いについて説明できる
15	まとめ	症例通覧	矯正治療の実際の治療例をもとに治療の流れを理解する

評価方法 筆記試験60点以上の得点

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	口腔外科学
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	松村 吉晃

学習目標 口腔外科疾患の病態、診断、治療法の実態を理解し、あわせて診療介助や診断補助の業務が行えるような知識を確実に修得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	I 口腔外科学概論 II 全身疾患と歯科治療	・口腔外科とは？ ・口腔外科における歯科衛生士の果たす役割 ・医療面接 ・紹介状 ・顎・口腔領域の疾患の種類や特徴 ・主な全身疾患	口腔外科学の概要と顎・口腔領域の疾患や主な全身疾患の種類、治療等の概要を理解し、診療介助や医療情報収集の業務について理解する
2-3	III 顎・口腔領域の疾患と治療 A 先天異常と発育異常	a 歯と口腔軟組織の異常 b(口)唇裂、口蓋裂 c 顎変形症	口腔内の先天異常と発育異常の種類・症状・治療法について理解する
4	B 顎・顔面の損傷	a 歯の外傷 b 軟組織の損傷 c 歯槽骨骨折 d 顎骨骨折	顎・顔面損傷の症状・治療法、原因について理解する
5-6	C 口腔粘膜疾患	a 潰瘍を主徴とする疾患 b 水泡形成を主徴とする疾患 c 紅斑・びらんを主徴とする疾患 d 白斑を主徴とする疾患 e 色素沈着 f 口腔乾燥	口腔粘膜疾患の種類・症状・治療法について理解する
7	D 炎症	a 歯槽部の炎症(ドライソケットを含む) b 顎骨の炎症 c 顎骨周囲軟組織の炎症(上顎洞炎を含む)	口腔領域の炎症の原因・特徴・症状・治療法を理解する
8	E 嚢胞	a 顎骨に発生する嚢胞 b 軟組織に発生する嚢胞 c 粘液嚢胞	口腔領域の嚢胞の種類・症状・治療法を理解する
9-10	F 腫瘍および腫瘍類似疾患	a 良性腫瘍 b 悪性腫瘍 c 腫瘍類似疾患	良性腫瘍と悪性腫瘍の違いについて、および口腔内に発生する良性腫瘍と悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類・症状・治療法を理解する
11	G 顎関節疾患 H 唾液腺疾患	a 顎関節脱臼 b 顎関節症 c 顎関節強直症 a 唾液腺炎 b 流行性耳下腺炎 c 唾石症 d 唾液腺腫瘍	顎関節疾患の種類・症状・治療法について理解する 唾液腺疾患の種類・症状・治療法を理解する
12	I 神経系疾患	a 三叉神経痛 b 三叉神経麻痺 c 顔面神経麻痺 d 舌痛症 e オーラルディスキネジア	口腔領域の神経疾患の種類と症状・治療法を理解する
13	J 血液疾患	a 貧血 b 白血病 c 血友病 d 突発性血小板減少性紫斑病	口腔領域に発現する血液疾患の種類と症状・治療法を理解する
14-15	IV 口腔外科治療	A 抜歯(埋伏歯抜歯を含む) B 消炎処置 C 止血処置 D 歯槽骨整形術 E 根尖切除術 F 嚢胞摘出術・嚢胞開窓術 G 歯槽骨骨折手術・顎骨骨折手術 H 口腔インプラント術 I 手術用器具 J 放射線治療～a 副作用 b 治療患者の口腔保健管理～	放射線治療を含めた口腔外科治療ならびに口腔外科小手術の種類・使用器具・適応症・禁忌症・手技、手術に伴う偶発症・継続症の種類と対処法を理解し、治療に際しての歯科衛生士の役割を理解する

評価方法 定期試験で60%以上の得点を合格とする

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	小児歯科疾患論
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	坪水 良平

学習目標 小児の増齢に伴う心身の特徴、顎口腔系の正常な発育の他、口腔疾患、さらにその予防法、対処法等を学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	小児歯科学概論 心身の発達その1	小児歯科学の意義と目的 発育の概念と分類、またその評価法や生理的年齢	小児歯科学の意義と目的を理解する 発育の概念と分類、またその評価法や生理的年齢について学ぶ
2	心身の発達その2 顔面頭蓋の発育	器官の発育、精神的発達や小児の生理的特徴 小児の顔面頭蓋の生理的な成長発育のあり方とその評価法	器官の発育、精神発達、小児の生理的特徴を理解する 小児の顔面頭蓋の生理的な成長発育を理解する
3	歯の発育と異常	歯の発育時期と形成障害、歯の萌出とその異常	正常な発育との違いを理解する
4	歯列、咬合の発育と異常	顎、顔面の成長発育における歯列及び咬合の特徴と推移	歯列、咬合の特徴と推移を理解する
5	乳歯、幼若永久歯の特徴と齶蝕	乳歯、幼若永久歯の形態的、構造学的、生理学的特徴とその齶蝕の概要について	乳歯と永久歯との違い、乳歯齶蝕の特徴を理解する
6	小児の歯科疾患	小児に見られる口腔軟組織の異常と疾患、及び歯周疾患	小児の口腔軟組織の異常と疾患、歯周疾患を理解する
7	小児期の特徴と歯科的問題点	低年齢児から思春期までの特徴、留意点と歯科疾患	発育の特徴、留意点を理解する
8	小児歯科診療体系の流れ	小児の歯科診療とその特徴、特に齶蝕予防処置と保護者	小児の齶蝕予防、保健指導法、保護者の関わりを理解する
9	患児の対応法	患児、保護者と歯科医師、歯科衛生士との関係 診療室における小児の態度と行動 年齢的にみた小児の行動と治療時の対応法	小児の行動と態度を理解し、患児への対応法を理解する
10	小児歯科における診療補助の原則	小児患者における麻酔法、ラバーダムを中心として診療における補助	各処置の診療補助の基本を理解する
11	診療補助その1	診査、検査及び資料採取 歯冠修復	診査、検査の方法、歯冠修復の手順等を理解する
12	診療補助その2	乳歯と幼若永久歯の歯内療法	乳歯及び幼若永久歯の歯内療法の留意点を理解する
13	診療補助その3	外科的処置、外傷、薬物療法	適応症、禁忌症や必要器材を理解する
14	診療補助その4 定期検診	咬合誘導 定期検診の目的、方法、システムとその診査項目	咬合誘導治療の必要性や保険装置を理解する 定期検診の必要性を理解する
15	障害児の歯科治療 まとめ	障害児の全身的、歯科的特徴と対応法 小児歯科学のまとめ	障害児の全身的、歯科的特徴と対応法を理解する 小児を正しく知り小児歯科疾患の基礎と臨床への理解を深める

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「小児歯科」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	高齢者歯科学
授業形態	講義(テキストと視聴覚素材を利用した講義)
開講時期	2年後期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	西 恭宏

学習目標 高齢者の健康を維持し、生活を支援するための医療としての歯科医療を理解し、口腔機能の回復や口腔保健指導のあり方に関する知識を習得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	高齢者をとりまく社会と環境	高齢者の特性、医療・福祉の法制度、生活の場	高齢者の特徴、高齢者をとりまく社会と環境を理解し、説明できる
2	加齢変化と高齢者の疾病	加齢に伴う身体的・精神的変化、高齢者に多い全身疾患	加齢に伴う身体的・精神的変化を知り、高齢者に多い疾患とその口腔への影響を説明できる
3	高齢者の口腔領域の特性と疾患	高齢者の口腔領域の加齢変化と口腔疾患の特徴	高齢者の口腔について知り、口腔領域の疾患の特徴を理解し、説明できる
4	高齢者の状態の把握	高齢者の日常生活動作と認知機能の把握、臨床検査、薬剤服用	高齢者のADLと認知機能の評価、臨床検査について説明でき、全身状態に関わる服用薬剤を理解する
5	高齢者の口腔衛生管理	高齢者に対する口腔ケア、口腔衛生管理	有病・要介護を含めた高齢者の口腔状態を理解し、口腔ケア時の注意点と口腔衛生管理を説明できる
6	高齢者の口腔機能管理	高齢者における口腔機能低下の評価方法と管理、また口腔機能リハビリテーションとそのリスク管理	要介護状態を含む様々な高齢者の口腔機能低下を知り、その評価方法ならびに管理方法、リハビリテーションを説明できる
7	高齢者の摂食と栄養	高齢者の摂食機能と栄養摂取、栄養評価・管理、食の支援	栄養評価について知り、高齢者の摂食と栄養状態の特徴、摂食機能と栄養管理の関係を説明できる
8	義歯のケアと管理	義歯の清掃方法と管理方法とそれらの指導	義歯の清掃ならびに管理の方法とこれらについて指導すべき内容を説明できる
9	高齢者に関わる医療と介護	在宅医療と介護予防	介護保険の内容と在宅医療を理解し、医療保険による訪問診療と介護保険による介護予防を説明できる
10	かかりつけ歯科と地域包括ケア	かかりつけ歯科の役割、地域包括ケア	かかりつけ歯科の役割を知り、歯科衛生過程を考慮した多職種連携による地域包括ケアを説明できる

評価方法 定期試験により評価する

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・「歯科衛生士のための高齢者歯科学」渡邊誠・岩久正明監著(永末書店 ISBN4-8160-1145-5)
- ・「よくわかる高齢者歯科学」佐藤裕二・植田耕一郎・菊谷武編集(永松書店 ISBN978-4-8160-1339-3)
- ・「義歯ケア事典」日本義歯ケア学会編集(永松書店 2018年9月 ISBN978-4-8160-1351-5)
- ・「医療連携」に役立つ有病者歯科マニュアル」白川正順他編(医学情報社 2013年4月 ISBN978-4-903553-47-4)
- ・「在宅訪問における口腔ケアの実際(第2版)増補」牛山京子著(医歯薬出版株式会社 2004年9月 ISBN978-4-263-44177-0)

実務経験

- ・歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	障害者歯科学
授業形態	講義・スライド
開講時期	2年後期・3年前期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	山崎 要一・稲田 絵美・山本 祐士

学習目標 今日、障害者の社会参加とノーマライゼーションの概念の浸透とともに、障害者も健全な人と同様な歯科医療サービスが受けられるような努力がなされている。障害者歯科の分野において、歯科衛生士の役割は、診療補助、口腔保健指導、疾病予防など極めて重要である。そこで、障害者歯科医療における歯科衛生士の役割を学び、必要な知識を深めることを目標とする

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	総論 障害者の現況	概念、社会的な状況、ノーマライゼーションなど 取り巻く法律や福祉施設(児童・成人)	障害とは何か、又、障害者を取り巻く社会の仕組みについて理解する
2	障害者の特質 ライフサイクルと障害者歯科 障害者歯科における行動調整 小児、成人、高齢の障害者にみられる歯科的特性 障害者に必要な歯科的援助について	障害者歯科の特質 歯科保健、治療における行動調整 小児、成人、高齢の障害者にみられる歯科的特性 障害者に必要な歯科的援助について	障害者歯科医療保健の特質と役割・援助、治療における行動調整等について理解する
3	障害者歯科における行動調整	障害者歯科における行動調整、薬理学的アプローチ、障害者への支援、専門職の役割について	障害者歯科に必要な行動変容法について理解する 障害者の生活と歯科的支援について理解する
4-7	障害の種類と歯科的特徴	障害の種類(MR、ダウン症)障害の種類(自閉症、広汎性発達障害、脳性麻痺)障害の種類(てんかん、筋ジストロフィー、重症心身障害児)障害の種類(軽度発達障害、AD/HD、LD、アスペルガー、高機能自閉症)	それぞれの障害について身体的及び歯科的特徴を理解する
8	障害者と薬剤	障害者歯科における歯科衛生士の役割、歯科診療補助	障害者に多い服用薬剤の種類、用途、歯科における注意点について理解する
9	障害者の歯科診療と歯科診療補助	トレーニングプログラム、媒体使用	障害者のトレーニングプログラムを理解する
10	障害者の歯科診療と歯科診療補助	抑制実習(レストレーナー、人、開咬器)	レストレーナー、人、開咬器により抑制について体得する
11	障害者の歯科診療と歯科診療補助	歯科診療補助	障害者に対する基本的な歯科診療、診療補助、患者対応について理解する
12	障害者の口腔保健管理	歯科衛生士による口腔保健管理、日常生活における障害者の口腔管理	障害者に対する口腔保健管理の内容について理解する
13	障害者の歯科保健指導の留意点と指導の実際	障害者別の特徴および歯科保健指導の留意点とその実際 機能面への歯科保健指導の留意点とその実際	障害者の歯科保健指導を行う際の実際の留意点や工夫について理解する
14	障害者歯科医療における歯科衛生士の役割	障害者の歯科保健、診療とかかりつけ医の意義、機能について 歯科医院と施設との連携、地域の保健、医療、福祉との連携について 巡回歯科診療について 摂食・嚥下リハビリテーション	障害者の対応に必要な歯科衛生士としての役割を理解する 摂食・嚥下障害の実態と支援方法を理解する
15	地域障害者歯科	二次、三次医療機関における歯科衛生士の役割 障害者の歯科保健、診療における行政、保健、医療機関との連携と歯科指導の工夫、留意点について	地域での障害者の生活や障害者の歯科保健、医療における連携と歯科衛生士の役割について理解できる

評価方法 定期試験による評価を行う

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「障害者歯科(第2版)」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

- ・歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	麻酔学
授業形態	講義(教科書に即してスライドやプリントを参照させながら進める)
開講時期	1年後期・2年前期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	新納 彩子

学習目標 全身麻酔と局所麻酔について学び歯科医療に不可欠な局所麻酔について作用の基本を理解し、患者に対して有効かつ安全に行うための知識を得る
 患者の全身状態を把握できるようになる
 麻酔薬の使用に際し、介助者としての注意点を理解する
 全身疾患を有する患者の管理と歯科治療時における注意点について理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科治療と歯科麻酔	歯科治療における歯科麻酔と患者管理	歯科治療における歯科麻酔の役割
2			歯科麻酔の立場からみたチーム医療における歯科衛生士の役割
3			全身状態の評価に必要な基本的事項
4			バイタルサインについて
5		局所麻酔	局所麻酔法(麻酔薬、血管収縮薬)について
6		局所麻酔法に使用する器材について	
7		局所麻酔時に起こりうる偶発症について	
8		精神鎮静法	精神鎮静法の種類、適応症、禁忌症、吸入鎮静法、静脈内鎮静法について
9		全身麻酔	全身麻酔の概要について
10		術中、術後管理について	

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学(第2版)」(医歯薬出版株式会社) ・配布物プリント

実務経験

- ・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯科口腔放射線論
授業形態	講義・実習
開講時期	1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	川島 雄介

学習目標 放射線は歯科臨床において欠かすことのできない分野であり画像機器の進歩に伴い診断における画像検査の占める割合が増えつつある。しかしながら放射線は放射線障害という問題をかかえているために放射線の利益および害を理解し、人体における放射線の生物学的影響や防護が重要となっている。これをふまえて将来歯科衛生士になるにあたり、自身の役割を認識し、放射線を安全かつ有効に扱えるようになるために必要な基礎知識を習得する

こ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	エックス線検査の意義 エックス線とその性質	放射線とは何かを知り、歯科医療におけるエックス線検査の役割を理解する エックス線についての物理的特性を理解する。X線と物質、歯牙との関係、その他の性質	1)放射線の定義、分類を理解する 2)歯科医療におけるエックス線検査の役割について説明する 3)エックス線の性質、単位について列記する
2	放射線の人体への影響	放射線の人体への影響を理解する	1)エックス線の為害性について説明する 2)放射線の人体に与える影響について説明する 3)放射線防護の方法について列記する
3	放射線防護の基本概念	放射線防護の必要性を知り、その方法を修得する	1)放射線防護の原則を説明する 2)放射線防護の方法を知る
4	デジタル画像とエックス線フィルム	デジタル画像やデジタルを用いた撮影法について知る	1)エックス線フィルム撮影とデジタル撮影について比較する 2)エックス線フィルムの特性について説明する 3)現像の方法、現像の失敗について説明する
5	口内法エックス線検査 撮影の実際と歯科衛生士の役割	口内法エックス線撮影の種類について知り、それぞれの撮影の意義を理解する 口内法撮影を行う際の歯科衛生士の役割を理解し、修得する	1)口内法エックス線撮影(二等分法、平行法、咬翼法、咬合法)の撮影方法について説明する 2)スタンダードプレコーション、撮影の流れについて説明する
6	パノラマエックス線検査	パノラマエックス線写真について理解し、撮影時の歯科衛生士の役割を理解し、修得する	1)パノラマエックス線撮影について説明する 2)撮影前準備について列挙する 3)撮影時の位置づけについて列記する
7	口外法エックス線検査	口内法エックス線撮影の種類について知り、それぞれの撮影の意義を理解する	1)口外法エックス線撮影の種類について列記する 2)P-A法、Warters法、セファロ撮影のそれぞれの撮影方法について説明する
8	CT、歯科用CBCT	CTの原理について知り、歯科領域での必要性について理解する。また、歯科用CBCTの歯科領域への応用について理解する	1)CT、歯科用CBCTの原理について説明する 2)CT、歯科用CBCTの歯科領域での利用について説明する
9	MRI	MRI検査の原理について知り、歯科領域でどのように使用されているかを理解する	1)MRIの原理について説明する 2)MRIの歯科領域での利用について説明する
10	超音波検査・核医学検査	超音波および核医学検査の原理について知り、歯科領域での応用について理解する	1)超音波検査、核医学検査の原理について説明する 2)超音波検査、核医学検査の歯科領域での利用について説明する
11	歯および歯周組織の病変 炎症性疾患の画像診断	主に口内法、パノラマエックス線画像を用いた歯、歯周組織の画像診断を身につける	1)歯槽骨吸収、歯石の診断を行う 2)齶蝕、根尖病巣の診断を行う 3)炎症性疾患の診断を行う
12	嚢胞および腫瘍の画像診断	パノラマおよびCT、MRI画像を用いた嚢胞、腫瘍の画像診断を知る	1)嚢胞の画像診断を説明する 2)腫瘍の画像診断を説明する
13	放射線治療	放射線治療の概念を知り、具体的な治療法を理解する	1)放射線治療について説明する
14-15	撮影補助実習(1)(2)	法律に基づいた撮影補助業務	歯科衛生士の業務内容を理解し、法律に基づいた撮影補助を理解する

評価方法 定期試験60点以上の得点

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科放射線」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

- ・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯科予防処置論:う蝕・歯周予防処置法
授業形態	講義・実習
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間 2単位
授業担当者	前田 みい子・永倉 英香・井料 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 歯・口腔の状態把握及び必要とされる歯科予防処置の基本的技術を修得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科予防処置の総論	歯科衛生士が行う歯科予防処置の概要、種類	歯科予防処置の概要と種類について理解する
2	齶蝕・歯周病予防の基礎	対象となる組織の名称と組織の概要	歯や歯周組織の構造と名称について理解する
3	齶蝕・歯周病予防の基礎	対象となる組織の名称と組織の概要	歯や歯周組織の構造と名称について理解する
4	歯周病予防の基礎	口腔内付着物の種類、成因	歯垢の増加因子や歯周病の症状と概要について理解する
5	歯周病予防の基礎	歯肉炎、歯周病の症状、歯周診査用器具と持ち方	歯肉炎、歯周病の症状と歯周診査用器具について理解する
6	歯周検査法	プローブの種類と操作法、動揺度測定、歯間離開度測定	プロービング、動揺度測定、歯間離開度の概要と測定方法について理解する
7	歯周検査法基本実習	プロービング、動揺度測定、歯間離開度測定マネキン実習	プロービング、動揺度測定、歯間離開度測定の意義や測定方法について理解する
8	歯周検査相互実習	プロービング、付着歯肉幅測定、動揺度測定、歯間離開度測定	プロービングと付着歯肉幅測定、動揺度測定、歯間離開度測定の方法を習得する
9	歯周検査相互実習	プロービング、付着歯肉幅測定、動揺度測定、歯間離開度測定	プロービングと付着歯肉幅測定、動揺度測定、歯間離開度測定の方法を習得する
10	キュレットスケーラーの知識	キュレットスケーラーの概要と基本操作法	キュレットスケーラーの特徴と基本操作を理解する
11	キュレットスケーリング	キュレットスケーリングマネキン実習	部位に応じたキュレットスケーラーの操作法を習得する
12	キュレットスケーリング	キュレットスケーリングマネキン実習	部位に応じたキュレットスケーラーの操作法を習得する
13	キュレットスケーリング	キュレットスケーリングマネキン実習	部位に応じたキュレットスケーラーの操作法を習得する
14	キュレットスケーリング	キュレットスケーラー操作法のチェック	キュレットスケーラーの部位に応じた基本操作ができるか確認する
15	キュレットスケーリング	キュレットスケーラー操作法のチェック	キュレットスケーラーの部位に応じた基本操作ができるか確認する

評価方法 定期試験による学科試験と実技試験を行う、出席状況、授業・実習態度などを加味する

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・新歯科衛生士教本「歯科予防処置」(医歯薬出版株式会社)
- ・配布物プリント

実務経験

- ・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業・実習である

科目名	歯科予防処置論:口腔保健管理法
授業形態	講義・実習
開講時期	1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	中崎 明広・末永 健市・南 睦美・町頭 三保・牧角 麻未 前田 みい子・永倉 英香・井料 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 歯・口腔の状態把握及び各種スケーラーの基本的操作技術を修得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	口腔内診査	口腔内診査項目の概要	口腔内診査項目の概要と診査法について理解する
2	口腔内観察実習	口腔内観察と歯周組織診査の相互実習	口腔内観察が正確に行え正常像と病的状態を理解する
3	口腔内観察実習	口腔内観察と歯周組織診査の相互実習	口腔内観察が正確に行え正常像と病的状態を理解する
4	超音波スケーラーとエアスケーラー	超音波スケーラーとエアスケーラーの特徴と基本操作	超音波のスケーラーとエアスケーラーの構成、操作法を理解する
5	歯面研磨	歯面研磨の意義、器具器材、操作法	歯面研磨の目的、使用器具器材、操作法、研磨剤の目的について理解する
6	超音波・エアスケーリングと歯面研磨	超音波スケーラー・エアスケーラーと歯面研磨の相互実習(下顎)	部位に応じた各種器材の操作法を習得する
7	超音波・エアスケーリングと歯面研磨	超音波スケーラー・エアスケーラーと歯面研磨の相互実習(下顎)	部位に応じた各種器材の操作法を習得する
8	超音波・エアスケーリングと歯面研磨	超音波スケーラー・エアスケーラーと歯面研磨の相互実習(上顎)	部位に応じた各種器材の操作法を習得する
9	超音波・エアスケーリングと歯面研磨	超音波スケーラー・エアスケーラーと歯面研磨の相互実習(上顎)	部位に応じた各種器材の操作法を習得する
10	スケーリングと歯面研磨	スケーリングと歯面研磨相互実習①	部位に応じた各種器材の操作法を習得する
11	スケーリングと歯面研磨	スケーリングと歯面研磨相互実習①	部位に応じた各種器材の操作法を習得する
12	スケーリングと歯面研磨	スケーリングと歯面研磨相互実習②	部位に応じた各種器材の操作法を習得する
13	スケーリングと歯面研磨	スケーリングと歯面研磨相互実習②	部位に応じた各種器材の操作法を習得する
14	スケーリングと歯面研磨	スケーリングと歯面研磨相互実習③	部位に応じた各種器材の操作法を習得する
15	スケーリングと歯面研磨	スケーリングと歯面研磨相互実習③	部位に応じた各種器材の操作法を習得する

評価方法 定期試験による学科試験と実技試験を行う、出席状況、授業・実習態度などを加味する

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・新歯科衛生士教本「歯科予防処置」(医歯薬出版株式会社)
- ・配布物プリント

実務経験

- ・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業・実習である
- ・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業・実習である

科目名	歯科予防処置論:口腔保健管理法
授業形態	講義・実習
開講時期	2年前期・2年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	中崎 明広・末永 健市・南 睦美・町頭 三保・牧角 麻未 前田 みい子・永倉 英香・井科 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 歯・口腔の状態を把握し患者に応じた口腔保健予防管理法について理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	補綴物清掃管理	各補綴物の清掃管理法	補綴物の清掃管理法と患者指導ができる
2	口腔保健管理指導	歯1への口腔保健指導実習	情報収集を行い、問題点抽出・分析後に指導を行うことができる
3	学齢期対象の口腔保健	学齢期を対象とした口腔保健管理指導	各学年に応じた口腔保健管理指導ができる
4	学齢期対象の口腔保健	学齢期を対象とした口腔保健管理指導	各学年に応じた口腔保健管理指導ができる
5	症例検討会の意義	症例検討会の目的、意義、方法	症例検討会の目的、意義、進め方を理解し班編成と症例の選択を行う
6	成人対象の口腔保健	成人期を対象とした口腔保健管理指導	担当患者の年齢および口腔内に応じた口腔保健管理指導ができる
7	症例検討会の準備	症例検討会のための資料作成	症例検討会のための資料作成を行うことができる
8	症例検討会の準備	症例検討会のための資料作成	症例検討会のための資料作成を行うことができる
9	口腔保健管理指導	技1への口腔保健指導実習	情報収集を行い、問題点抽出・分析後に指導を行うことができる
10	症例検討会の準備	症例検討会のための資料作成と役割分担打合せ	症例検討会のための資料作成を行い、発表の為の打合わせを行う
11	症例検討会	症例検討会の実施	症例検討会における発表と質疑応答を行うことができる
12	有病者の口腔管理①	糖尿病患者への口腔保健管理	糖尿病の概要、合併症、口腔の特徴、診療補助時の留意点、口腔ケアの実際を理解する
13	有病者の口腔管理②	心疾患患者への口腔保健管理	心疾患の概要、主症状、口腔の特徴、薬剤で診療中に注意すべき事項、診療補助時の留意点、口腔ケアの実際を理解する
14	有病者の口腔管理③	脳卒中患者への口腔保健管理①	脳卒中の概要、疾患の特徴、口腔の特徴、薬剤で診療中に注意すべきことを理解する
15	有病者の口腔管理④	脳卒中患者への口腔保健管理②	脳卒中患者の診療補助時の留意点、口腔ケアの実際を理解する

評価方法 定期試験による学科試験と実技試験を行う、出席状況、授業・実習態度などを加味する

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・口腔保健指導論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」(医歯薬出版株式会社)
- ・配布物プリント

実務経験

- ・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業・実習である
- ・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業・実習である

科目名	歯科予防処置論:口腔保健管理法
授業形態	講義・実習
開講時期	3年前期・3年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	前田 みい子・永倉 英香・井科 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 ライフステージ別における口腔内予防管理法について理解し、継続的な口腔保健管理、業務記録を作成する能力を養う

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	介護予防総論①	介護予防総論と口腔機能向上①	介護予防の総論と口腔機能の向上の概要について理解する
2	介護予防総論②	介護予防総論と口腔機能向上②	介護予防の総論と口腔機能の向上の概要について理解する
3	歯周病と全身疾患	歯周病と全身疾患の関係性(ライオンセミナー)	歯周病と全身疾患との関係性を知り、口腔保健管理の仕方を理解する
4	リハビリテーション総論①	リハビリテーション医学と摂食嚥下障害①	リハビリテーション医学と摂食嚥下障害の考え方について理解する
5	リハビリテーション総論②	リハビリテーション医学と摂食嚥下障害②	リハビリテーション医学と摂食嚥下障害の考え方について理解する
6	有病者への口腔管理①	がんに関する知識、がん周術期の口腔機能管理、口腔粘膜炎①	がんに関する概要、がん診断と評価、がん治療、がん周術期口腔機能管理、医科歯科連携、口腔粘膜炎について理解する
7	有病者への口腔管理①	がんに関する知識、がん周術期の口腔機能管理、口腔粘膜炎②	がんに関する概要、がん診断と評価、がん治療、がん周術期口腔機能管理、医科歯科連携、口腔粘膜炎について理解する
8	有病者への口腔管理①	がん患者への口腔保健管理	がん患者の診療補助時の留意点、口腔ケアの実際を理解する
9	有病者への口腔管理②	精神疾患に関する知識、精神疾患患者の口腔内	精神疾患に関する概要、口腔内の特徴について理解する
10	有病者への口腔管理②	精神疾患患者への口腔保健管理	精神疾患患者の診療補助、薬剤の特徴を理解する
11	有病者への口腔管理②	精神疾患患者への口腔保健管理	精神疾患患者への口腔ケアの実際を理解する
12	周術期の口腔管理①	周術期の口腔管理①	周術期とは、チーム医療の必要性、術前～術後におけるOMについて理解する
13	周術期の口腔管理②	周術期の口腔管理②	人工呼吸管理者の口腔管理、人工呼吸装着患者の口腔ケアにおけるリスク、病棟患者、人工呼吸装着患者のOMについて理解する
14	地域保健活動における継続管理	地域歯科保健における歯科衛生士の役割	地域歯科保健活動における健康管理、PDCAサイクルを用いた健康教育の実際について理解する
15	大規模災害時の口腔管理	大規模災害時における歯科衛生士の役割	大規模災害時の状況、災害時における歯科ニーズ、歯科衛生士の役割・活動、災害時における口腔管理について理解する

評価方法 定期試験による学科試験と実技試験を行う、出席状況、授業・実習態度などを加味する

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・口腔保健指導論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・関係資料の配布

実務経験

- ・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業・実習である

科目名	歯科予防処置論:う蝕予防処置実習
授業形態	講義・実習
開講時期	1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	前田 みい子・永倉 英香・井料 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 齶蝕予防処置法の種類と各処置法における方法について理解し基本的技術を修得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	う蝕予防処置の総論	歯科衛生士が行うう蝕予防処置の概要、定義、種類	う蝕予防処置の概要と種類について理解する
2	う蝕の特性	う蝕の概要、う蝕の原因、う蝕の症状	う蝕の概要、う蝕の原因、症状について理解する
3	カリエスリスクテスト	カリエスリスクテストの目的、種類、材料による分類	う蝕発生因子とう蝕活動性試験の関係、目的、材料による分類、方法、結果判定について理解する
4	カリエスリスクテスト	カリオスタット、RDテストの相互実習	カリオスタット、RDテストの意義と検査方法について理解する
5	カリエスリスクテスト	カリオスタット、RDテストの判定結果	カリオスタット、RDテストの判定結果について理解する
6	エナメル質表層とフッ素	エナメル質表層の性質、フッ素の知識	エナメル質のフッ素分布や自然界におけるフッ素の分布について理解する
7	フッ化物の知識	フッ化物の概要	局所塗布に用いるフッ化物と特徴、種類、塗布方法、保健指導について理解する
8	フッ化物の知識	フッ化物の応用、フッ化物の齶蝕抑制機序、吸収・沈着・排泄、中毒	フッ化物応用法の種類、齶蝕抑制機序、吸収・沈着・排泄、中毒について理解する
9	フッ化物取り扱い	フッ化物局所塗布の相互実習	フッ化物歯面塗布法の術式、助言について理解する
10	フッ化物取り扱い	フッ化物局所塗布の相互実習	フッ化物歯面塗布法の術式、助言について理解する
11	フッ化物取り扱い	フッ化物洗口法取り扱い実習	フッ化物洗口法の取り扱いについて理解する
12	フッ化物取り扱い	フッ化物配合歯磨剤の概要	フッ化物配合歯磨剤の概要、取り扱いについて理解する
13	フッ化物取り扱い	ライフステージに応じたフッ化物応用法	ライフステージに応じたフッ化物応用法の概要について理解する
14	フッ化物の計算	急性中毒が発現するフッ化物の量	急性中毒を発現させないフッ化物の安全量の計算法について理解する
15	まとめ	う蝕予防処置の総復習	う蝕予防処置の知識、技術について再確認する

評価方法 定期試験による学科試験と実技試験を行う、出席状況、授業・実習態度などを加味する

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・「歯科衛生士のための齶蝕予防処置法(第2版)」中垣晴男・加藤一夫・石飛國子・高阪利美他編著(医歯薬出版株式会社)
- ・「クリニカルカリオロジー」熊谷崇他著(医歯薬出版株式会社) ・わたしの齶蝕予防管理ノート ・配布物プリント

実務経験

・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業・実習である

科目名	歯科予防処置論:う蝕予防処置実習
授業形態	講義・実習
開講時期	2年前期・2年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	前田 みい子・永倉 英香・井料 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 齶蝕予防処置法の種類と各処置法における方法について理解し基本的技術を修得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	カリエスリスクテストの概要	各種カリエスリスクテストの目的、方法	各種カリエスリスクテストの目的、検査方法について理解する
2	カリエスリスクテスト①	各種カリエスリスクテストの相互実習	各種カリエスリスクテストの目的を把握した上で正確に検査できる
3	カリエスリスクテスト①	各種カリエスリスクテストの相互実習	各種カリエスリスクテストの目的を把握した上で正確に検査できる
4	齶蝕予防管理	患者実習におけるう蝕予防管理指導	患者実習における患者の口腔内状況を把握し齶蝕予防管理法について説明できる
5	齶蝕予防管理	患者実習におけるう蝕予防管理指導	患者実習における患者の口腔内状況を把握し齶蝕予防管理法について説明できる
6	リスクテストの分析	カリエスリスクテストの検査結果	カリエスリスクテストの検査結果の意味するものを理解する
7	自衛隊隊員協力実習	自衛隊隊員協力による総合実習	患者実習における患者の口腔内状況を把握し齶蝕予防管理法について説明できる
8	自衛隊隊員協力実習	自衛隊隊員協力による総合実習	問診、口腔内診査、歯周検査、スクーリング、歯面研磨、リスクテスト等を習得する
9	う蝕予防処置	フッ化物製剤の取り扱い(トレイ法)	フッ化物製剤の種類、特徴、使用法の復習をすることにより理解する
10	う蝕予防処置	フッ化物製剤の取り扱い実習(トレイ法)	フッ化物製剤の取り扱い実習を通して操作法を修得する
11	カリエスリスクテスト②	各種カリエスリスクテストの相互実習	カリエスリスクテスト①以外のリスクテストの種類、目的を把握した上で正確に検査できる
12	カリエスリスクテスト②	各種カリエスリスクテストの相互実習	カリエスリスクテスト①以外のリスクテストの種類、目的を把握した上で正確に検査できる
13	シーラント・サホライド	シーラント・サホライドの概要	シーラント及びサホライドの概要、術式、取り扱い上の注意点などについて理解する
14	海上保安庁協力実習	海上保安庁協力による総合実習	問診、口腔内診査、歯周検査、スクーリング、歯面研磨、リスクテスト等を習得する
15	予防製品の取り扱い	各種予防製品の取り扱い実習(ウェルテックセミナー)	各種予防製品の特徴を知り、口腔内に適した使用方法ができ患者指導へ還元できる

評価方法 定期試験による学科試験を行う、出席状況、授業・実習態度などを加味する

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」(医歯薬出版株式会社)
- ・「歯科衛生士のための齶蝕予防処置法(第2版)」中垣晴男・加藤一夫・石飛國子・高阪利美他編著(医歯薬出版株式会社)
- ・「クリニカルカリオロジー」熊谷崇他著(医歯薬出版株式会社) ・「わたしの歯の健康ノート」(株式会社モリムラ) ・配布物プリント

実務経験

・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業・実習である

科目名	歯科予防処置論: 予防的歯石除去実習
授業形態	講義・実習
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	前田 みい子・永倉 英香・井料 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 歯・口腔の状態把握及び必要とされる歯科予防処置の基本的技術の中の鎌型スクレーラー操作法と器具のメンテナンス法を修得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	手用スクレーラーの基礎知識	手用スクレーラーの種類、形、特徴、操作法	手用スクレーラーの種類、形、特徴などについて理解する
2	鎌型スクレーラー取り扱い	手用器具形態及び操作上の注意	把持法、操作方法について理解し手技操作を習得する
3	鎌型スクレーラー取り扱い	顎模型実習(机上訓練実習)	鎌型スクレーラーにおける前腕回転運動、手根関節運動、手指屈伸運動を習得する
4	鎌型スクレーリング	マネキン取り扱いとミラーの取り扱い、下顎前歯唇側スクレーリング	マネキン実習の意味、マネキンの基本位置、ポジション、ミラーの操作、部位に応じた器具の操作法を習得する
5	鎌型スクレーリング	下顎前歯部舌側面・上顎前歯部唇側面のスクレーリング	部位に応じたポジション、マネキンの調整、スクレーラー操作を習得する
6	鎌型スクレーリング	上顎前歯部口蓋側面のスクレーリング・前歯部復習スクレーリング	部位に応じたポジション、マネキンの調整、スクレーラー操作を習得する
7	鎌型スクレーリング	上顎左側頬側・口蓋側面のスクレーリング	部位に応じたポジション、マネキンの調整、スクレーラー操作を習得する
8	鎌型スクレーリング	上顎右側頬側面・口蓋側面のスクレーリング	部位に応じたポジション、マネキンの調整、スクレーラー操作を習得する
9	鎌型スクレーリング	下顎左側頬側面・舌側面のスクレーリング	部位に応じたポジション、マネキンの調整、スクレーラー操作を習得する
10	鎌型スクレーリング	下顎右側頬側面・舌側面のスクレーリング	部位に応じたポジション、マネキンの調整、スクレーラー操作を習得する
11	鎌型スクレーリング	鎌型スクレーラー操作法のチェック	部位に応じたポジション、マネキンの調整、スクレーラー操作を習得する
12	鎌型スクレーリング	鎌型スクレーラー操作法のチェック	部位に応じたポジション、マネキンの調整、スクレーラー操作を習得する
13	シャープニングの知識	シャープニングの目的、各スクレーラーのシャープニング法	シャープニングの目的、研ぎ方の原則、砥石の種類、必要器材について理解する
14	シャープニングの実際	鎌型スクレーラー・キュレットスクレーラーのシャープニング方法	各スクレーラーの形態を理解した上でのシャープニング方法を習得する
15	シャープニングの実際	鎌型スクレーラー・キュレットスクレーラーのシャープニング方法	各スクレーラーの形態を理解した上でのシャープニング方法を習得する

評価方法 定期試験による学科試験と実技試験を行う、出席状況、授業・実習態度などを加味する

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)」(医歯薬出版株式会社) ・新歯科衛生士教本「歯科予防処置」(医歯薬出版株式会社)
- ・配布物プリント

実務経験

- ・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業・実習である

科目名	歯科予防処置論: 予防的歯石除去実習
授業形態	講義・実習
開講時期	2年前期・2年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	前田 みい子・永倉 英香・井料 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 歯・口腔の状態把握及び患者に応じた必要とされる歯科予防処置の基本的技術を修得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯面清掃器	歯面清掃器の概要、基本操作、注意事項	歯面清掃器の概要、用途、使用法、注意点について理解する
2	歯面清掃器取り扱い	歯面清掃器の相互実習	歯面清掃器の概要、用途、使用法、注意点を把握した上で操作法を習得する
3	歯面清掃器取り扱い	歯面清掃器の相互実習	歯面清掃器の概要、用途、使用法、注意点を把握した上で操作法を習得する
4	PMTC	PMTCの概要と必要性、バイオフィルム感染症の概念、PMTC術式、使用器具器材	PMTCの目的、必要性、術式、使用器具器材について理解する
5	PMTC取り扱い	PMTC相互実習	術前、術後の状態の変化、各種器具や使用方法について理解する
6	PMTC取り扱い	PMTC相互実習	術前、術後の状態の変化、各種器具や使用方法について理解する
7	患者実習オリエンテーション	患者実習の概要	患者実習の概要を理解し、必要な器材等の確認を行う
8	患者実習想定実習	患者実習想定実習	問診、口腔内診査、歯周検査、スクレーリング、歯面研磨等の一連の流れや各器材の操作法を習得する
9	患者実習想定実習	患者実習想定実習	問診、口腔内診査、歯周検査、スクレーリング、歯面研磨等の一連の流れや各器材の操作法を習得する
10	患者実習	患者実習における総合実習	問診、口腔内診査、歯周検査、スクレーリング、歯面研磨、リスクテスト等を習得する
11	患者実習	患者実習における総合実習	問診、口腔内診査、歯周検査、スクレーリング、歯面研磨、リスクテスト等を習得する
12	自衛隊隊員協力実習	自衛隊隊員協力による総合実習	問診、口腔内診査、歯周検査、スクレーリング、歯面研磨、リスクテスト等を習得する
13	自衛隊隊員協力実習	自衛隊隊員協力による総合実習	問診、口腔内診査、歯周検査、スクレーリング、歯面研磨、リスクテスト等を習得する
14	KBCC学生協力実習	KBCC学生協力による総合実習	問診、口腔内診査、歯周検査、スクレーリング、歯面研磨、リスクテスト等を習得する
15	KBCC学生協力実習	KBCC学生協力による総合実習	問診、口腔内診査、歯周検査、スクレーリング、歯面研磨、リスクテスト等を習得する

評価方法 定期試験による学科試験を行う、出席状況、授業・実習態度などを加味する

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)」(医歯薬出版株式会社) ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」(医歯薬出版株式会社)
- ・新歯科衛生士教本「歯科予防処置」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

- ・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業・実習である

科目名	歯科保健指導論:保健指導学
授業形態	講義・実習
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	40時間(学校歯科保健6時間を含む)1単位
授業担当者	前田 みい子・永倉 英香・井科 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 口腔健康教育の考え方や方法を理解し、個人における歯科保健行動や集団における健康教育の指導原案作成法を習得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科保健指導の総論	歯科保健指導の意義・定義、健康の概念	歯科保健指導の概要を説明できる。プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション、予防の概念を説明できる
2	歯科疾患の概要と予防法	歯科疾患の概要、ブラッシング法、歯間清掃実習(ライオンセミナー)	歯科疾患における概要を知り、その予防法と各種予防製品の特徴と取り扱いについて理解する
3	小集団指導法の見学	学齢期を対象とした集団指導	対象学年に応じた指導内容や手法、媒体について理解する
4	口腔の基礎知識	正常な口腔とその機能および摂食嚥下機能	歯・口腔の疾患と異常の観察と評価ができる。摂食嚥下機能について説明できる
5	健康の概念と行動変容	健康の概念および健康に関する事項と行動変容	健康の定義、日本における健康の取り組みや考え方について理解する。行動変容の種類と考え方について理解する
6	食生活指導の基礎	食生活と歯科疾患の関係とライフスタイルへの影響、食生活指導法	食育基本法と食生活指針が説明できる。各ライフステージ別の食生活指導ができる
7	対象者別保健指導①	妊産婦の歯科保健指導	妊産婦の一般的特徴および口腔の特徴、妊産婦の歯科保健行動、口腔清掃指導、食生活・生活指導を説明できる
8	対象者別保健指導②	新生児・乳幼児の歯科保健指導	新生児・乳幼児の一般的特徴、発育、歯科保健行動、指導内容を説明できる
9	面接・問診法	望ましい対人関係の理解、コミュニケーションの概要	人間関係の意味、コミュニケーションの定義、成分、流れ、メッセージの伝え方について理解する
10	面接・問診法実習	面接、問診相互実習	面接法を通して問診事項の情報収集、整理、分析を行い個人を理解する
11	対象別保健指導③	幼児期の歯科保健指導	幼児の一般的及び口腔の特徴、幼児の発達段階別の歯科保健行動、幼児に対する口腔清掃指導、食生活・生活指導が説明できる
12	対象別保健指導④	学齢期の歯科保健指導	学齢期の一般的及び口腔の特徴、発達段階別の歯科保健行動、学年別目標に対する口腔清掃指導、食生活・生活指導が説明できる
13	対象別保健指導⑤	青年・成人期の歯科保健指導	青年・成人期の一般的及び口腔の特徴、歯科保健行動、口腔清掃指導、食生活・生活指導、口腔と全身疾患との関連を説明できる
14	対象別保健指導⑥	老年期の歯科保健指導	老化を説明できる。老年期の一般的及び口腔の特徴、歯科保健行動、口腔清掃指導、食生活・生活指導が説明できる
15	対象別保健指導⑦	要介護高齢者の歯科保健指導	要介護高齢者の全身及び口腔の特徴、歯科保健行動、口腔清掃指導、食生活・生活指導が説明、専門的口腔ケアと口腔機能訓練を説明できる
16	対象別保健指導⑧	障害者の歯科保健指導	障害について、障害別の一般的及び口腔の特徴、障害別の歯科保健行動、口腔清掃指導、食生活・生活指導が説明できる
17	地域歯科保健活動	地域歯科保健の特徴の理解、集団を対象とした指導法、大規模災害被災者への対応	地域保健の場の特徴、対象に応じた教育活動、歯科衛生教育活動における歯科衛生士の役割を説明できる(大規模災害被災者支援会)
18	歯科衛生過程①	歯科衛生過程の概要と流れ	歯科衛生過程の概要を説明できる
19	歯科衛生過程②	歯科衛生過程における情報の解釈・意味	歯科衛生過程における情報の解釈と意味を理解し記入できる
20	歯科衛生過程③	歯科衛生過程における情報の統合、目標と計画立案	歯科衛生過程における情報の統合ができ、目標と計画立案ができる

評価方法 定期試験による学科試験を行う
小集団指導におけるシュミレーション実習を通して評価を行う
出席状況、授業・実習への取り組み、態度、提出物などの総合的評価を行う

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・「歯科口腔保健の推進に向けて ライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック」公益社団法人日本歯科衛生士会監修(医歯薬出版株式会社)
- ・配布物プリント

実務経験

・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業である

科目名	歯科保健指導論: 歯科保健指導実習
授業形態	講義・実習
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	前田 みい子・永倉 英香・井料 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 口腔健康指導に必要な知識・技術を修得し、個別指導法について理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	口腔清掃法	口腔内清掃方法の知識	歯口清掃の種類と歯ブラシの形態、名称、特徴、交換時期について理解する
2	歯科疾患の概要と予防法	歯科疾患の概要、ブラッシング法、歯間清掃実習(ライオンセミナー)	歯科疾患における概要を知り、その予防法と各種予防製品の特徴と取り扱いについて理解する
3	各種口腔清掃法	各種ブラッシング方法の種類と特徴、操作法、留意点	各種ブラッシング法の種類と特徴、操作法、留意点を述べることができる
4	補助的清掃用具	補助的清掃用具の種類と特徴、操作法、留意点	各種補助的清掃用具の種類と特徴、操作法、留意点を述べることができる
5	各種口腔清掃法実習	染色剤の種類と特徴を学び、自身の口腔内を染色後、各種ブラッシング法を修得する	染色剤の種類と特徴を述べるができる。自身の口腔内で各種ブラッシング法を実践し操作できる
6	歯磨剤と洗口剤と保湿剤	歯磨剤、洗口剤、保湿剤の知識	歯磨剤の成分と作用、性質、為害作用等や洗口剤の概要を理解した上で、歯磨剤・洗口剤・保湿剤を専門的立場からの助言ができる
7	口腔清掃法自習法①	口腔内染色後、自身の口腔内に応じたブラッシング法の実践および補助的清掃用具の使用法を修得する	口腔内を染色後に、自身の口腔内に応じたブラッシング法を実践し、また補助的清掃用具を使用できる
8	口腔清掃法自習法②	歯間ジェル、洗口液の利用	口腔内を染色後に、自身の口腔内に応じたブラッシング法を実践し、歯間ジェル、洗口液を実際に利用し使用法と使用感を体得する
9	電動歯ブラシ・音波ブラシ	各種電動歯ブラシや音波ブラシの特徴(ヨシダセミナー)	歯科疾患における概要を知り、その予防法と電動歯ブラシ・音波ブラシ等の予防製品の特徴と取り扱いについて理解する
10	歯垢清掃指数	歯垢清掃指数の種類と求め方	歯垢清掃指数の各種類、チェック法と指数としての求め方ができる
11	歯肉炎・歯周炎の指数	歯肉炎・歯周炎の指数の種類と求め方	歯肉炎・歯周炎の指数の各種類、チェック法と指数としての求め方ができる
12	小集団指導法準備	学齢期を対象とした集団指導の原稿作成と媒体作製	指導する対象学年に応じた原稿と媒体作製を行う
13	訪問口腔衛生指導の実際	訪問口腔衛生指導に必要な基礎知識を修得する	要介護高齢者の全身の特徴・歯科の特徴を述べる。口腔ケアの目的を述べる
14	口腔ケア実習	口腔ケアの一連の流れを通して、介護者及び要介護者の立場を理解する	口腔ケア時の留意点、ポジションを述べる。口腔清掃用具の作製、専門的口腔清掃用を実施する
15	小集団指導法実習	学齢期における集団健康教育の想定実習	各学齢期を対象とした小集団指導でのシナリオ、媒体を元に指導法を実践できる

評価方法 定期試験による学科試験を行う
手技操作の確認テストを行う
出席状況、授業・実習への取組み、態度、提出物などの総括的評価を行う

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・「歯科口腔保健の推進に向けて ライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック」公益社団法人日本歯科衛生士会監修(医歯薬出版株式会社)
- ・配布物プリント

実務経験

- ・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業・実習である

科目名	歯科保健指導論: 歯科保健指導実習
授業形態	講義・実習
開講時期	2年前期・2年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	前田 みい子・永倉 英香・井科 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 口腔健康教育の考え方と方法を理解し、個人又は集団に対する口腔健康教育を実践する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	個別指導法実習Ⅰ	青年期における口腔保健指導(技1対象)	技1の学生に対し問診等を通して情報収集、整理、分析を行い口腔内健康管理について指導を展開できる
2	個別指導法実習Ⅰ	青年期における口腔保健指導(衛1対象)	衛1の学生に対し問診等を通して情報収集、整理、分析を行い口腔内健康管理について指導を展開できる
3	集団指導法実習	学童期における集団健康教育の実施	小学校において各学年に応じた口腔内健康教育を小集団指導法にて実施できる
4	集団指導法実習	学童期における集団健康教育の実施	小学校において各学年に応じた口腔内健康教育を小集団指導法にて実施できる
5	個別指導法実習Ⅲ	成人期における口腔保健指導(患者実習)	患者に対し問診等を通して情報収集、整理、分析を行い口腔内健康管理について指導を展開できる
6	禁煙支援	禁煙支援の基礎知識を理解した上で、対象者の禁煙ステージに合わせた面接技法を学ぶ	禁煙による口腔および全身の影響を述べる。禁煙ステージに対応した支援方法を述べる。動機付け面接を実践できる
7	個別指導法実習Ⅳ	成人期における口腔保健指導(自衛隊隊員協力実習)	患者に対し問診等を通して情報収集、整理、分析を行い口腔内健康管理について指導を展開できる
8	集団指導	幼稚園・聾学校での集団指導教育	幼稚園児、聾学校の児童・生徒に対して劇を通して口腔保健の大切さを指導できるシナリオや劇媒体の作製を行う
9	集団指導の準備①	幼稚園・聾学校での集団指導教育	幼稚園児、聾学校の児童・生徒に対して劇を通して口腔保健の大切さを指導できるシナリオや劇媒体の作製を行う
10	集団指導の準備②	幼稚園・聾学校での集団指導教育	幼稚園児、聾学校の児童・生徒に対して劇を通して口腔保健の大切さを指導できるシナリオや劇媒体の作製を行う
11	個別指導法実習Ⅳ	成人期における口腔保健指導(海上保安庁協力実習)	幼稚園児、聾学校の児童・生徒に対して劇を通して口腔保健の大切さを指導できるシナリオや劇媒体の作製を行う
12	個別指導法実習Ⅴ	成人期における口腔保健指導(KBCC学生協力実習)	問診等を通して情報収集、整理、分析を行い口腔内健康管理について指導を展開できる
13	口腔ケアの実際①	対象者の全身状態を把握し、車椅子上での口腔ケアを実施	車椅子上での口腔ケアを実施する。誤嚥に気を付けて要介護高齢者の口腔内貯留物を清掃する
14	口腔ケアの実際②	対象者の全身状態を把握し、ベッド上での口腔ケアを実施	ベッド上での口腔ケアを実施する。誤嚥に気を付けて要介護高齢者の口腔内貯留物を清掃する
15	集団指導の準備③	幼稚園・聾学校での集団指導教育	幼稚園児、聾学校の児童・生徒に対して劇を通して口腔保健の大切さを指導できるシナリオや劇媒体の作製を行う

評価方法 定期試験による学科試験を行う
出席状況、授業・実習への取り組み、態度、提出物などの総合的評価を行う

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・「歯科口腔保健の推進に向けてライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック」公益社団法人日本歯科衛生士会監修(医歯薬出版株式会社)
- ・配布物プリント

実務経験

- ・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業・実習である

科目名	歯科保健指導論: 歯科保健指導実習
授業形態	講義
開講時期	3年前期
時間数・単位	10時間
授業担当者	鉛山 光世

学習目標 患者1人1人にあった、科学的根拠に基づいた歯科保健指導ができるようになる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科衛生ケアプロセスについて	歯科衛生ケアプロセスの意義・目的・方法について	ケアプロセスの意義・方法を知り科学的根拠に基づいた保健指導ができる
2	実技(事例)	身近な人のケアプロセスを実際に行う	対象となる人の理解を深め、アセスメント、計画立案することができる
3	歯科衛生業務記録について	歯科衛生業務記録の目的・内容について	保健指導を行うにあたっての歯科衛生業務記録の必要性を学ぶことができる
4	実技(事例)	患者の事例を通して、グループワークにてケアプロセスを行い発表	実際の事例を通してアセスメント能力・計画立案の向上を図る
5	実技(事例)	患者の事例を通して、各々ケアプロセスを行い発表	実際の事例を通してアセスメント能力の向上、計画立案ができる

評価方法 レポート提出

参考図書等

- ・「歯科衛生ケアプロセス」下野正基監修(医歯薬出版株式会社)

実務経験

- ・本科目は、歯科衛生士として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯科保健指導論: 歯科保健指導実習
授業形態	講義・実習
開講時期	3年前期・3年後期
時間数・単位	60時間 2単位(業務記録の10時間も含む: 外来講師)
授業担当者	千堂 洋一・門松 伸一・前田 みい子・永倉 英香・井料 真代美 本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 口腔健康教育の考え方や方法を理解し、個人又は集団に対する口腔健康教育を実践する
歯科口腔介護の概要と必要な基礎知識、基礎技術について理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	高齢社会と介護の必要性	高齢社会と介護の必要性・介護と歯科口腔介護	高齢社会と介護の必要性、歯科口腔介護の意義と目的、歯科領域の知識について理解する
2	集団指導法実習	幼稚園・小学校における集団健康教育の実施	幼稚園・小学校において各年齢に応じた口腔内健康教育を小集団指導法にて実施できる
3	集団指導法実習	聾学校・養護学校における集団健康教育の実施	聾学校・養護学校において各年齢に応じた口腔内健康教育を小集団指導法にて実施できる
4	やさしい嚥下障害の診療① 千堂Dr	嚥下障害の症状、対応法	嚥下障害の症状、対応法について理解する
5	通院困難者への対応 門松Dr	訪問診療、口腔衛生管理、口腔機能管理、栄養管理	ライフステージによる対応を理解する
6	やさしい嚥下障害の診療② 千堂Dr	嚥下障害の起こる疾患、症例紹介	嚥下障害の起こる全身疾患の概要及び症例を元に嚥下障害を理解する
7	口腔衛生管理 門松Dr	口腔衛生管理の意義と目的	口腔衛生管理の意義と疾患ごとによる対応を理解する
8	口腔機能管理 門松Dr	口腔機能管理の意義と目的	口腔機能管理の種類と評価法、評価基準について理解する
9	高齢者の特徴	高齢者の全身的・口腔の特徴	高齢者の特徴を理解し、加齢変化を生理的変化と病的変化に区別し、加齢が口腔・咽頭領域の機能に及ぼす影響を理解する
10	栄養管理と摂食・嚥下障害 門松Dr	栄養管理の意義と目的、摂食・嚥下障害の評価	栄養管理の評価方法と、摂食・嚥下障害の評価方法を理解する
11	やさしい嚥下障害の診療③ 千堂Dr	嘔吐の誘発と対応	嘔吐誘発の原因、対応法を理解する
12	やさしい嚥下障害の診療④ 千堂Dr	間接的訓練、直接的訓練、摂食嚥下障害の原因と対応	摂食嚥下障害の原因と対応法、間接訓練および直接訓練の概要について理解する
13	摂食嚥下機能の発達	摂食嚥下機能の獲得過程、機能発達の過程	口腔領域の形態成長と関連して、摂食嚥下機能の発達過程を理解する
14	やさしい嚥下障害の診療⑤ 千堂Dr	摂食障害に対する対応法	嚥下障害に対する対応法について理解する
15	摂食嚥下障害	障害別の摂食嚥下障害	摂食嚥下障害の原因、障害別摂食嚥下障害の特徴について理解する
16	リハビリテーション 門松Dr	口腔機能低下や摂食・嚥下のリハビリテーションについて	疾患ごとに有効なリハビリテーションについて理解する
17	加齢による摂食嚥下障害	高齢者の摂食嚥下機能と障害	加齢が摂食嚥下における口腔・咽頭領域の機能に及ぼす影響について理解する
18	摂食嚥下リハビリテーション①	間接的訓練実習	間接的訓練の種類と効果、実践方法について修得する
19	摂食嚥下リハビリテーション②	直接的訓練実習	直接的訓練の種類と効果、実践方法について修得する
20	他職種連携 門松Dr	歯科衛生士の役割と他職種連携	口腔機能管理における介護予防、他職種連携について理解する
21	摂食嚥下リハビリテーションと口腔ケア	摂食嚥下機能の評価法と口腔ケア	摂食嚥下機能の評価法を理解し、安全で効果的な口腔ケアの方法を修得する
22	認知症 黒野Dr	認知症患者と歯科衛生士	認知症の概要と歯科衛生士としての関わり方について理解する
23	口腔機能管理 門松Dr	口腔機能管理まとめ	口腔機能管理に関するまとめを行い、全体を理解する
24	施設における歯科衛生士 上原DH	施設における歯科衛生士	施設における歯科衛生士の役割について理解する
25	居宅における科衛生士 尾形DH	居宅における歯科衛生士	居宅における歯科衛生士の役割について理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う
出席状況、授業・実習への取り組み、態度、提出物などの総合的評価を行う

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科予処置論・歯科保健指導論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・「歯科口腔保健の推進に向けて ライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック」公益社団法人日本歯科衛生士会監修(医歯薬出版株式会社)
- ・「歯科衛生士のための口腔機能管理マニュアル 高齢者編」公益社団法人日本歯科衛生士会監修(医歯薬出版株式会社)
- ・「はじめて学ぶ歯科口腔介護(第2版)」新井俊二・小椋秀亮監修(医歯薬出版株式会社)
- ・「やさしくわかる口腔の機能と筋 咀嚼・嚥下・発音のメカニズム」森戸光彦編著(医歯薬出版株式会社)
- ・歯科衛生士講座「高齢者歯科学」(永井書店)
- ・「PT・OT・ST学生のためのやさしい嚥下障害の診療」椿原彰夫編著(永井書店)
- ・配布物プリント

実務経験

- ・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業・実習である
- ・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業である

科目名	栄養指導Ⅱ
授業形態	講義・演習
開講時期	2年前期・2年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	森田 洋子

学習目標 日本人の食生活の現状と各ライフステージ別の食の特徴を把握し、食行動変容を促す栄養教育を理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	女性の栄養と食事	女性の身体の特徴と食事のポイント	自分自身の食生活を見直し、改善できるところを見つけ自分の健康管理ができるようになる
2	発育・発達・加齢変化と栄養	エイジングの形態の変化と食の変化	エイジングと食にまつわる機能の変化を理解する
3	栄養マネジメント	栄養マネジメントの概要、栄養アセスメント、計画、実施、評価	栄養マネジメントの全体の流れを理解する
4	妊娠期・授乳期の栄養	妊娠期・授乳期の特性と栄養ケア	妊娠期・授乳期の特性、栄養上の特徴、栄養アセスメントについて理解する
5	乳児期の栄養	乳児期の特性と栄養ケア	乳児期の特性、離乳食と歯の成長・発育との関連を含めた、栄養アセスメントについて理解する
6	幼児期の栄養	幼児期の特性を栄養ケア	幼児期の特性、栄養上の特徴、栄養アセスメントについて理解する
7	学童期の栄養 思春期の栄養	学童期の特性と栄養ケア 思春期の特性と栄養ケア	学童期の栄養上の特徴、アセスメント等について理解する 思春期の特性、栄養上の特徴、栄養アセスメント等について理解する
8	成人期の栄養	成人期の疾病の特徴と栄養ケア	成人期の特性、栄養上の特徴、咀嚼習慣も含めたアセスメント等について理解する
9	成人期の栄養	生活習慣病と栄養ケア	メタボリックシンドローム並びに歯周病との関連も含めて歯科衛生士の役割について学ぶ
10	更年期の栄養 高齢期の栄養	更年期の特徴と栄養ケア 高齢期の特徴と栄養ケア	更年期の特性、栄養上の特徴、栄養アセスメント等について理解する 高齢期の特性、特に低栄養の特徴、栄養アセスメント等について理解する
11	配慮を要するものへの指導	障害児者、要介護者、摂食嚥下障害を有する者への栄養ケア	障害者、要介護者、摂食嚥下障害を有する者それぞれに対応して栄養摂取について理解する
12	セルフケアと食	調理実習	食事計画の立案、献立作成、調理実習を通しセルフケアについて学ぶ
13	セルフケアと食	調理実習	食事計画の立案、献立作成、調理実習を通しセルフケアについて学ぶ
14	食事摂取基準	食事摂取基準の基礎的理解と1年の復習	食事摂取基準の指標や栄養素別の指標の数値を理解する
15	まとめ	人体と栄養のまとめ	全講義のまとめを通して理解する

評価方法 定期試験・レポートで総合的評価を行う
小プリントで復習を行う

参考図書等

・「応用栄養学 ライフステージからみた人間栄養学(第10版)」森基子・玉川和子他著(医歯薬出版株式会社)

実務経験

科目名	歯科診療補助論:歯科診療補助
授業形態	講義・実習
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	永倉 英香・前田 みい子・井科 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 歯科診療補助の概要を理解し、歯科診療補助業務に必要な基本的な知識と使用器材並びに基本動作を習得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科診療補助の総論	歯科診療補助の概要、歯科衛生士の行う歯科診療補助	歯科診療補助の意味、法的位置づけ、補助と介助の違いについて理解する
2	歯科器材の基礎知識	使用する主な歯科器械と器材	歯科器械や器材などの名称と用途について理解する
3	歯科器材の基礎知識	診療設備、歯科診療台・ユニットの構造	ユニットの構造と取り扱い法について理解する
4	受付事務	受付の基礎知識と業務、診療録の作成と保管	受付の必要性、意義、業務内容、文書・資料の整理と管理について理解する
5	患者の対応	受付対応、事務の概要、受付の事務的な仕事	受付対応法(対応の作法、日常用語の使い方、電話対応)、受付の仕事について理解する
6	診療室の管理	歯科診療における前準備	診療室の環境整備、医薬品・材料の管理について理解する
7	共同動作	患者対応・インフォームドコンセント	一般患者の把握と対応法、インフォームドコンセントの理論と技法について理解する
8	共同動作	共同動作の概念と方法(実習)	共同動作の意義、ルール、位置、姿勢、患者誘導について理解する
9	共同動作	バキュームとスリーウェイシリンジ	バキュームの目的、挿入位置、禁忌症、スリーウェイシリンジの目的、方法について理解する
10	共同動作	バキュームとスリーウェイシリンジを用いた相互実習	部位に応じたバキュームとスリーウェイシリンジの使い方を理解する
11	共同動作	バキュームとスリーウェイシリンジを用いた相互実習	部位に応じたバキュームとスリーウェイシリンジの使い方を理解する
12	歯科治療時の診療補助	口腔内写真撮影	口腔内写真撮影の意義と撮影方法について理解する
13	歯科治療時の診療補助	口腔内写真撮影実習(正面観・咬合面観)	口腔内写真撮影の意義を理解した上で正確な撮影ができる
14	歯科治療時の診療補助	口腔内写真撮影実習(側方面観)	口腔内写真撮影の意義を理解した上で正確な撮影ができる
15	歯科治療時の診療補助	口腔内写真撮影実習(総復習)	口腔内写真撮影の意義を理解した上で正確な撮影ができる

評価方法 定期試験による学科試験を行う、実技試験による評価を行う
出席状況、授業・実習への取組み、態度、提出物などの総合的評価を行う

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論(第2版)」(医歯薬出版株式会社) ・最新歯科衛生士教本「歯科材料」(医歯薬出版株式会社)
・最新歯科衛生士教本「歯科機器」(医歯薬出版株式会社) ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助」(医歯薬出版株式会社)
・配布物プリント

実務経験

・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業である

科目名	歯科診療補助論:歯科診療補助
授業形態	講義・実習
開講時期	2年前期・2年後期
時間数・単位	60時間 2単位
授業担当者	永倉 英香・前田 みい子・井科 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 臨床科目で学んだ基礎知識を元に、歯科治療時における各種歯科診療補助業務が円滑に行えるよう習得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	保存治療における歯科診療補助	ラバーダム防湿の概要	ラバーダム防湿の意義、使用器具器材の名称と用途、防湿方法について理解する
2	保存治療における歯科診療補助	ラバーダム防湿の模型実習	ラバーダムの取り扱い法を習得する
3	保存治療における歯科診療補助	ラバーダム防湿の相互実習	患者配慮に気をつけ、安全なラバーダムの取り扱い法を習得する
4	保存治療における歯科診療補助	ラバーダム防湿の相互実習	患者配慮に気をつけ、安全なラバーダムの取り扱い法を習得する
5	保存治療における歯科診療補助	切削用器具の種類とその準備	手用と器械の種類を理解し、準備を行う
6	保存治療における歯科診療補助	歯髄保護材の基礎知識	歯髄保護材の使用目的、種類を理解する
7	保存治療における歯科診療補助	歯間分離、隔壁の基礎知識	歯間分離・隔壁の使用目的、種類を理解する
8	保存治療における歯科診療補助	隔壁の取り扱い実習	隔壁の取り扱い方法を習得する
9	保存治療における歯科診療補助	インレー修復の基礎知識	インレーの種類とセットまでの流れを理解する
10	歯内療法における歯科診療補助	歯髄鎮痛消炎剤、裏層の基礎知識	歯髄鎮痛消炎剤・裏層材の使用目的、種類を理解する
11	歯内療法における歯科診療補助	間接覆髄剤(材)、直接覆髄剤(材)、IPCの基礎知識	間接覆髄剤(材)・直接覆髄剤(材)の使用目的、種類を理解する
12	歯内療法における歯科診療補助	電気歯髄診断器、根管治療の基礎知識	電気歯髄診断器の取り扱い法、根管治療時の使用器具・治療内容を理解する
13	歯内療法における歯科診療補助	歯髄の除去療法	歯髄の除去法・術式・使用器具について理解する
14	歯内療法における歯科診療補助	根管充填の器具・薬剤の基礎知識	根管充填時の使用器具・治療内容を理解する
15	補綴治療における歯科診療補助	支台築造、歯肉圧排の基礎知識	支台築造～歯肉圧排時の使用器具・治療内容を理解する
16	補綴治療における歯科診療補助	歯冠修復物の基礎知識	歯冠修復物の種類とセットまでの流れを理解する
17	補綴治療における歯科診療補助	義歯の基礎知識(PD)	義歯の構成・種類・患者指導について理解する
18	補綴治療における歯科診療補助	義歯の基礎知識(FD)	義歯の構成・種類・患者指導について理解する
19	歯周治療における歯科診療補助	歯周外科処置の基礎知識	歯周外科処置の種類・目的・使用器具を理解する
20	歯周治療における歯科診療補助	暫間固定の基礎知識	暫間固定の目的・使用器具を理解する
21	口腔外科における歯科診療補助	麻酔の基礎知識、麻酔薬の取り扱い実習	麻酔の方法、薬剤の種類を理解し、取り扱い方法を習得する
22	口腔外科における歯科診療補助	拔牙の基礎知識	拔牙時の使用器具・治療内容を理解する
23	口腔外科における歯科診療補助	外科用小器具、縫合、止血方法の基礎知識	外科処置の種類・使用器具・治療内容について理解する
24	口腔外科における歯科診療補助	鎮静法、全身麻酔の基礎知識	鎮静法・全身麻酔の実施目的・方法を理解する
25	小児歯科における歯科診療補助	小児対応法の基礎知識	小児歯科診療時の対応法を理解する
26	診療における歯科診療補助	トレーセッティング、器具の手渡し実習	各処置に必要な器具の準備と器具の受け渡し法について理解する
27	診療における歯科診療補助	トレーセッティング復習実習①	各処置に必要な器具の準備をする
28	診療における歯科診療補助	印象採得の復習実習①	概形印象を確実に採得する
29	診療における歯科診療補助	トレーセッティング復習実習②	各処置に必要な器具の準備をする
30	診療における歯科診療補助	印象採得の復習実習②	概形印象を確実に採得する

評価方法 定期試験による学科試験を行う
出席状況、授業・実習への取組み、態度、提出物などの総合的評価を行う

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「歯科材料」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「歯科機器」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「歯周病学(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」(医歯薬出版株式会社)
- ・配布物プリント

実務経験

- ・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業である

科目名	歯科診療補助論:歯科診療補助
授業形態	講義・実習
開講時期	3年前期・3年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	永倉 英香・前田 みい子・井科 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 高齢者・有病者・障害児(者)に対する歯科診療補助・歯科診療介助の概要について理解し、対応法を習得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科診療時の全身管理	主な全身疾患とその対応①	代謝・内分泌疾患、消化器疾患、循環器疾患、血液疾患について理解する
2	歯科診療時の全身管理	主な全身疾患とその対応②	呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患、免疫・膠原病、感染症について理解する
3	歯科診療時の全身管理	主な全身疾患とその対応③	神経系疾患、精神疾患、がん、産科・婦人科疾患について理解する
4	歯科診療時の全身管理	周術期における歯科診療の補助	周術期の歯科治療への対応について理解する
5	歯科診療時の全身管理	歯科診療におけるバイタルサイン	バイタルサイン・意識レベルの把握について理解する
6	高齢者への対応	高齢者への対応①	認知症・要介護者に対応するために精神的・肉体的・生活面・口腔領域について理解する
7	高齢者への対応	高齢者への対応②	知的障害者・肢体不自由者に対応するために精神的・肉体的・生活面・口腔領域について理解する
8	高齢患者への接し方	機能障害・通院同伴者のいる患者への歯科診療介助	身体、視力、聴力の衰え、脳梗塞後遺症の患者への対応法や介助の仕方、家族・ヘルパー・入所施設職員への対応法を理解する
9	高齢者への対応	車椅子の介助	車椅子での移動の介助法を理解する
10	高齢者への対応	視聴覚障害者の理解	視聴覚障害者について理解する
11	高齢者への対応	障害別の対応法	障害毎の対応の仕方を理解する
12	高齢者への対応	視聴覚障害者の歩行介助	視聴覚障害者の歩行等の介護において介護のポイントを理解する
13	障害(児)者歯科診療	障害児(者)への歯科診療介助	知的障害者に対する介助の仕方や対応法について理解する
14	在宅訪問歯科診療	歯科訪問診療	訪問歯科診療用器材について理解する
15	感染予防	感染予防	感染症患者の滅菌・消毒法と在宅訪問診療における感染防止対策について理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う

出席状況、授業・実習への取組み、態度、提出物などの総合的評価を行う

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「歯科機器」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「歯科材料」(医歯薬出版株式会社)
- ・配布物プリント

実務経験

- ・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業である

科目名	歯科診療補助論: 歯科材料学
授業形態	講義・実習
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	永倉 英香・前田 みい子・井料 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 歯科診療で用いられる各種印象材と模型材の材料の特徴や用途を理解した上で正確な手技操作を習得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	衛生材料	衛生材料の種類と用途、作製方法	綿球、ロールワッテ、カット綿、小折ガーゼの種類、用途、形について理解する
2	衛生材料	衛生材料の作製法実習	綿球、ロールワッテ、小折ガーゼ、綿栓の作製法について理解する
3	歯科材料の概要	歯科材料の基礎知識	歯科材料について理解する
4	印象採得	印象の種類と目的、トレーの種類と目的	印象の種類と目的、目的別トレーの種類について理解する
5	印象材の概要	アルジネート印象材の基礎知識と取り扱い方	アルジネート印象材の概要。用途。材料の特徴について理解する
6	印象材の取り扱い	アルジネート印象材の取り扱い実習(ペースト・粉末)	材料取り扱い、器具の取り扱い、練和法、気泡抜き等を習得する
7	印象材の取り扱い	アルジネート印象材の取り扱い実習(下顎トレー盛り)	下顎のトレー盛りの方法を習得する
(7)	印象材の取り扱い	アルジネート印象材の取り扱い実習(上顎トレー盛り)	上顎のトレー盛りの方法を習得する
8	印象材の取り扱い	アルジネート印象材の取り扱い実習(下顎模型上)	下顎の模型上で印象採得する方法を習得する
(8)	印象材の取り扱い	アルジネート印象材の取り扱い実習(上顎模型上)	上顎の模型上で印象採得する方法を習得する
9	印象材の取り扱い	印象採得相互実習(下顎)	下顎の印象をスムーズで正確に採得できる方法を習得する
(9)	印象材の取り扱い	印象採得相互実習(上顎)	上顎の印象をスムーズで正確に採得できる方法を習得する
10	咬合採得	咬合採得用のワックスの基礎知識と取り扱い方	咬合採得用ワックスの特徴、取り扱い等について理解する
11	模型材	模型材の基礎知識	模型材の種類、特徴、取り扱い、硬化反応、混水比、硬化膨張について理解する
12	模型材と咬合採得の取り扱い	模型材の作製と咬合採得実習	普通石膏を用いた模型材作製と咬合採得の方法について習得する
13	模型材の取り扱い	模型材の作製	普通石膏を用いた模型材作製方法について習得する
14	模型材の取り扱い	模型材のトリミング	咬合平面と上下顎基底面の平行性の必要性について理解し、トリミング法を修得する
15	精密印象材	精密印象材:寒天印象材の基礎知識と取り扱い方	寒天印象材の特徴、用途、使用方法等について理解する
16	精密印象材の取り扱い	寒天印象材とアルジネート印象材の連合印象採得実習	寒天印象材の取り扱い、連合印象採得の意義、方法等について習得する
17	精密印象材	精密印象材:ゴム質印象材の基礎知識と取り扱い方	ゴム質印象材の特徴、種類、用途、使用方法等について理解する
18	精密印象材の取り扱い	ゴム質印象材を用いた連合印象採得実習	ゴム質印象材の取り扱い、連合印象採得の意義、方法等について理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う
実技試験による評価を行う
出席状況、授業・実習への取り組み、態度、提出物などの総括的評価を行う

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「歯科材料」(医歯薬出版株式会社)
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助」(医歯薬出版株式会社)
- ・配布物プリント

実務経験

- ・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業である

科目名	歯科診療補助論: 歯科材料学
授業形態	講義・実習(歯科診療補助論の進捗に合わせて進める)
開講時期	2年前期・2年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	永倉 英香・前田 みい子・井料 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 臨床科目で学んだ歯科治療時における(特に保存修復・歯内療法・補綴物合着) 歯科材料の特徴や用途を理解した上で、正確な手技操作を習得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	成形修復材の特徴	成形修復材の種類と性質	成形修復材の特徴(種類と性質)を学ぶ
2	成形修復材の知識	コンポジットレジン基礎知識	コンポジットレジンの特徴(種類と性質)を学ぶ
3	成形修復材の取り扱い	コンポジットレジン取り扱い実習	コンポジットレジンの特徴を理解した上で取り扱い法を習得する
4	成形修復材の知識	アマルガムの基礎知識	アマルガムの特徴(種類と性質)を学ぶ
5	合着材・接着材の特徴	合着材・接着材の種類と性質	合着材・接着材の特徴(種類と性質)を学ぶ
6	合着材・接着材の知識	リン酸亜鉛セメント・グラスアイオノマーセメントの基礎知識	リン酸亜鉛セメント・グラスアイオノマーセメントの特徴(種類と性質)を学ぶ
7	合着材・接着材の知識	カルボキシレートセメント・接着性レジンセメントの基礎知識	カルボキシレートセメント・接着性レジンセメントの特徴(種類と性質)を学ぶ
8	合着材・接着材の取り扱い	合着材・接着材の取り扱い実習	合着材・接着材の特徴を理解した上で取り扱い法を習得する
9	仮封材の知識	仮封材の基礎知識	仮封材の特徴(種類と性質)を学ぶ
10	仮封材の取り扱い	仮封材の取り扱い実習	仮封材の特徴を理解した上で取り扱い法を習得する
11	仮着材の知識	仮着材の基礎知識	仮着材の特徴(種類と性質)を学ぶ
12	歯肉包帯材の知識と取り扱い	歯肉包帯材の基礎知識と取り扱い実習	歯肉包帯材の特徴(種類と性質)を学び、特徴を理解した上で取り扱い法を習得する
13	根管充填材の知識と取り扱い	根管充填剤の基礎知識と取り扱い	根管充填材の特徴(種類と性質)を学び、特徴を理解した上で取り扱い法を習得する
14	ワックスの知識	ワックスの基礎知識	ワックスの特徴(種類と性質)を学ぶ
15	合着材・接着材の取り扱い	合着材・接着材の取り扱い実習(総復習)	合着材・接着材の特徴を理解した上で取り扱い法を習得する

評価方法 定期試験による学科試験を行う
実技試験による評価を行う
出席状況、授業・実習への取組み、態度、提出物などの総合的評価を行う

参考図書等

- 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- 最新歯科衛生士教本「歯科材料」(医歯薬出版株式会社)
- 新歯科衛生士教本「歯科診療補助」(医歯薬出版株式会社)
- 配布物プリント

実務経験

- 本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業である

科目名	歯科診療補助論: 歯科材料学
授業形態	講義・実習
開講時期	3年前期・3年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	永倉 英香・前田 みい子・井料 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 歯科臨床の場で頻繁に実施されている歯科治療において、歯科診療補助業務を理解した上で歯科材料の取り扱いを確実に習得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	インプラントの知識	インプラントの基礎知識	インプラントの目的、使用器具、材料等について理解する
2-3	インプラントの知識	インプラント(術式)の基礎知識	インプラントの術式について理解する
4	患者指導(インプラント)	インプラント患者への指導	患者指導法について理解する
5	各個トレー	各個トレーの基礎知識	個歯・個人トレーの使用目的、種類、作製方法について理解する
6	各種検査法	ゴシックアーチ描記法、チェックバイト法、平衡測定法の基礎知識	各種検査法の使用器具・検査方法を理解する
7	患者指導(PD)	PD患者への指導	患者指導法について理解する
8	患者指導(FD)	FD患者への指導	患者指導法について理解する
9	暫冠被覆冠の知識	暫冠被覆冠の基礎知識	暫冠被覆冠の用途、材料の特徴、作製法、作製時の注意点等について理解する
10	暫冠被覆冠の作製	暫冠被覆冠の作製実習(上顎1番)	既製冠を用いて作製方法を習得する
11	暫冠被覆冠の作製	暫冠被覆冠の作製実習(上顎1番)	印象体を用いて作製方法を習得する
12	暫冠被覆冠の作製	暫冠被覆冠の作製実習(上顎6番)	レジン塊を用いて作製方法を習得する
13	暫冠被覆冠の作製	暫冠被覆冠の作製実習(上顎6番)	レジン塊を用いて作製方法を習得する
14	患者指導(Br/FMC) スプリントの知識	Br/FMC装着患者への指導 スプリントの概要と作成法	患者指導法について理解する スプリントの目的、用途、作成法等について理解する
15	ホワイトニングの知識	ホワイトニングの基礎知識	ホワイトニングの目的、術式、使用器具、材料等について理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う
実技試験による評価を行う
出席状況、授業・実習への取組み、態度、提出物などの総合的評価を行う

参考図書等

- 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- 最新歯科衛生士教本「歯科材料」(医歯薬出版株式会社)
- 新歯科衛生士教本「歯科診療補助」(医歯薬出版株式会社)
- 配布物プリント

実務経験

- 本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業である

科目名	歯科診療補助論:感染予防学
授業形態	講義・実習
開講時期	1年前期
時間数・単位	1年前期 12時間(鎌田先生の4時間含む 計15時間)
授業担当者	永倉 英香・前田 みい子・井科 真代美・本田 茂代・秋山 陽平

学習目標 院内感染防止対策の意義と方法について理解し、実践できる

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	感染予防対策	安全管理と感染防止対策	感染防止対策の目的や意義、安全管理の必要性等について理解する
2	感染予防対策	滅菌、消毒の定義と種類、方法	滅菌、消毒の定義、各種滅菌器の特徴、滅菌対象物、消毒液の種類と濃度について理解する
3	感染予防方法	手指消毒の意義と手指消毒の方法の実習	手指消毒法の意義を理解した上で手指消毒方法を習得する
4	感染予防方法	滅菌物の取り扱いの意義と取り扱い方法の実習	滅菌物の取り扱い時の注意点、取り扱い方について習得する
5	感染予防方法	滅菌物の取り扱いの意義と取り扱い方法の実習(患者誘導)	滅菌物の取り扱い時の注意点、取り扱い方について習得する
6	感染予防方法	滅菌物の取り扱いの意義と取り扱い方法の実習(確認試験)	滅菌物の取り扱い時の注意点、取り扱い方について習得する

評価方法 定期試験による学科試験を行う
実技試験による評価を行う
出席状況、授業・実習への取組み、態度、提出物などの総合的評価を行う

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助」(医歯薬出版株式会社)
- ・「歯科衛生士のための感染予防スタンダード」井上孝編著(医歯薬出版株式会社)
- ・配布物プリント

実務経験

- ・本科目は、歯科衛生士として教育経験のある教員による授業である

科目名	歯科診療補助論:感染予防学
授業形態	講義
開講時期	2年後期・3年前期
時間数・単位	4時間 1単位(専任の12時間含む 計15時間)
授業担当者	鎌田 真由美

学習目標 院内感染の複雑化・多様化に伴い感染の機序、感染予防対策について学ぶ
感染予防の目的、対策が理解でき医療従事者として安全な医療を提供できる

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	医療法改正 院内感染	医療法からみた院内感染対策、感染症(院内感染)の動向、感染の発症、成立要因、伝播様式	感染について理解する
2	感染予防	感染予防のための基本的対策、歯科医療における感染予防対策	正しい感染予防の知識を身に付け実践することができる

評価方法 レポート提出

参考図書等

- ・「歯科医療の院内感染ガイドライン」「感染防止対策マニュアル」など

実務経験

- ・本科目は、歯科衛生士として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯科診療補助論:社会保険・請求事務
授業形態	講義(グループワーク、教科書、プリントを利用する)
開講時期	2年後期・3年後期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	山元 吉和

学習目標 歯科診療補助の一環として歯科の診療内容と保険請求事務について理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	保険の基礎知識	保険請求とカルテとの関連	保険証とカルテ内容とレセプトの関連性を理解する。請求事務の基本を学ぶ
2	学生研究発表①	①初診再診について ②初期齶蝕の治療 ③歯髄処置	テーマについてグループで調べ発表し、質疑応答を通して理解を深める
3	学生研究発表②	①外科治療 ②歯周病治療前半(歯周基本治療について)	テーマについてグループで調べ発表し、質疑応答を通して理解を深める
4	学生研究発表③	①歯周病治療後半 ②若年者・小児の治療 ③在宅医療について	テーマについてグループで調べ発表し、質疑応答を通して理解を深める
5	学生研究発表④	補綴治療①歯冠修復 ②ブリッジ ③有床義歯	テーマについてグループで調べ発表し、質疑応答を通して理解を深める
6	歯科衛生士と社会保険	歯周病治療 SPTについて	実習を通して疑問に感じたことを質疑応答を中心に理解を深めるようにする。授業を通して正しい保険請求を学ぶ
7	歯科衛生士と社会保険	外科・歯内療法	実習を通して疑問に感じたことを質疑応答を中心に理解を深めるようにする。授業を通して正しい保険請求を学ぶ
8	歯科衛生士と社会保険	補綴について・総括	実習を通して疑問に感じたことを質疑応答を中心に理解を深めるようにする。授業を通して正しい保険請求を学ぶ

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

- ・「歯科保険請求マニュアル 歯の知識と請求の実務(平成30年版)」高橋一祐著(医歯薬出版株式会社)

実務経験

- ・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯科診療補助論:救急蘇生
授業形態	講義
開講時期	2年前期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	四道 瑠美

- 学習目標 ①思いがけず患者さんの急変に遭遇した時に、正しい処置がとれるよう、救急蘇生を理解する
 ②バイタルサインの意義を学び、患者さんの急変に繋がる各疾患の病態を理解する
 ③歯科治療に特に注意が必要な全身疾患と、歯科治療時に発生しうる全身的偶発症の病態を理解する
 ④一次救命処置とバイタルサインの測定を実施する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	救急蘇生概論	一次救命と二次救命について学ぶ	一次救命と二次救命を説明できる
2	バイタルサイン、モニタリング	バイタルサインとモニタリングの基礎知識を学ぶ	バイタルサインの項目や測定法を説明できる バイタルサインの測定を実施できる
3	一次救命	一次救命のアルゴリズムを学ぶ	一次救命処置の手順を説明できる 一次救命処置に用いる器材を説明し、準備ができる
4	二次救命	二次救命のアルゴリズムを学ぶ	二次救命処置の手順を説明できる 二次救命処置に用いる器材を説明し、準備ができる
5	小児・乳児のBLS	小児・乳児のBLSについて、特に成人のBLSとの違いについて学ぶ	小児・乳児の救急蘇生を説明できる
6	歯科における偶発症	歯科診療時に起こりうる神経性ショック、過換気症候群、局所麻酔中毒、アレルギーなどの全身的偶発症についての基礎知識を学ぶ	神経性ショックを説明し、患者対応ができる 過換気症候群を説明し、患者対応ができる アナフィラキシーショックを説明し、患者対応ができる
7	全身疾患を有する患者の歯科治療	歯科治療時に注意が必要な全身疾患の概要を学ぶ	歯科治療時に特に注意が必要な全身疾患について理解し、各疾患についての注意点を説明できる
8	一次救命の実習	実際に模型を使用して一次救命の手技を学ぶ	一次救命処置の手順を説明できる 一次救命処置を実施できる。AEDの取り扱いを実施できる

評価方法 定期試験により評価する

参考図書等

- ・「改訂版BLS:写真と動画でわかる一次救命処置(DVD付き)」平出敦・小林正直監修(学研メディカル秀潤社)定価2,520円(税込)
- ・「改訂版ALS:写真と動画でわかる二次救命処置(DVD付き)」平出敦・小林正直監修(学研メディカル秀潤社)定価2,520円(税込)
- ・「写真と動画でわかる一次救命処置 BLS(改訂 第3版)」小林正直・石見拓監修(学研メディカル秀潤社)本体2,700円(税別)

実務経験

- ・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯科診療補助論:摂食嚥下指導
授業形態	講義(教科書に即してスライドやプリントを参照しながら進める)
開講時期	2年後期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	多田 亮平

- 学習目標 摂食・嚥下のメカニズムについて理解し、摂食・嚥下障害に対する歯科的アプローチについての知識を得る
 摂食・嚥下障害者に対する口腔ケアと病態に応じた指導ができるようになる

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	基礎編	摂食・嚥下障害とは	摂食・嚥下障害の概要、歯科医療従事者が摂食・嚥下に関わる意義について理解する
2	基礎編	摂食・嚥下障害の理解のために必要な解剖	摂食・嚥下機能に関わる器官の解剖について理解する
3	基礎編	摂食・嚥下障害の理解のために必要な解剖	摂食・嚥下機能に関わる器官の解剖について理解する
4	基礎編	摂食嚥下機能の発達と小児の摂食嚥下障害	小児期の摂食嚥下機能と障害について理解する
5	臨床編	摂食・嚥下のメカニズムと理解に必要な生理および摂食・嚥下障害を起こす疾患	摂食・嚥下障害が生ずるメカニズムおよび摂食・嚥下障害をきたす全身疾患、口腔疾患について理解する
6	臨床編	摂食・嚥下と口腔ケア、摂食・嚥下障害者の栄養管理	摂食・嚥下障害患者への口腔ケアの意義、方法ならびに摂食・嚥下障害患者の栄養管理について理解する
7	臨床編	摂食・嚥下障害の評価法	摂食・嚥下障害の評価法についての知識を得る
8	臨床編	摂食・嚥下訓練法	具体的な摂食・嚥下訓練法、歯科衛生士が行う摂食・嚥下訓練の実践を学ぶ

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

- ・「わかる!摂食・嚥下リハビリテーション I 評価法と対処法」植松宏監修(医歯薬出版株式会社)
- ・配布プリント

実務経験

- ・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	臨床実習:開業医
授業形態	実習
開講時期	2年後期
時間数・単位	臨床・臨地実習時間数:3年間で1076時間 23単位

学習目標 開業医における基本的な歯科治療において一連の処置の流れと使用器具・器材の名称、用途並びに薬剤について理解する

授業計画

授業題目	実習内容	到達目標
予診・診査	予診の意義、予診時の診査・検査、歯科診療用語、傷病名とその略称	予診の項目や受診内容、歯科診療用語、傷病名と略称について理解する
予診・診査	予診用器材の種類と名称、用途	各種診査器材の種類と名称、用途について理解する
X線撮影法	X線写真の意義、種類、撮影方法	レントゲン写真撮影の意義、写真の種類、撮影方法について理解する
歯髄の保存療法	歯髄覆罩・裏装(裏層)	歯髄覆罩・裏装(裏層)の目的、材料等について理解する
歯内療法	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:断髄法	断髄法の一連の流れを理解し使用器具器材の名称、用途について理解する
歯内療法	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:抜髄	抜髄の一連の流れを理解し使用器具器材の名称、用途について理解する
歯内療法	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:根管治療	根管治療の一連の流れを理解し使用器具器材の名称、用途について理解する
歯内療法	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:感染根管治療	根管治療と感染根管治療の違いを理解し一連の流れをと使用器具器材の名称、用途について理解する
歯内療法	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:根管充填	根管充填の一連の流れを理解し使用器具器材の名称、用途について理解する
歯科保存	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:成形修復	成形修復処置に伴う窩洞、充填、研磨までの一連の流れを理解し使用器具の用途、材料の取り扱いについて理解する
歯科保存と歯科補綴	保存領域における歯科疾患と治療法の概要	インレー修復の窩洞、連合印象採得、咬合採得、仮封、合着までの一連の流れを理解し使用器具の用途、材料取り扱いについて理解する
歯科保存と歯科補綴	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:クラウンセット	クラウンセット適応の窩洞分類、コアセットまでの連合印象採得、咬合採得、セットまでの一連の流れを理解し使用器具の用途、材料取り扱いについて理解する
歯周療法	歯周治療の概要	歯周治療の流れと歯周治療の内容について理解する
口腔外科	口腔外科領域における歯科疾患と治療法の概要:普通拔牙	普通拔牙における一連の流れを理解し使用器具器材の名称、用途、薬剤について理解する
義歯補綴	欠損部位への義歯補綴	欠損部位への義歯補綴作成から装着までの一連の流れと使用器具・器材の名称・用途について理解する 義歯補綴装着後の患者指導について理解する

評価方法 実習手帳、実習記録、実習態度等により総合的評価を行う

実務経験

・本科目は、歯科医師・歯科衛生士として実務経験のある教員による実習である

科目名	臨床実習:開業医
授業形態	実習
開講時期	3年前期・3年後期
時間数・単位	臨床・臨地実習時間数:3年間で1076時間 23単位

学習目標 基本的な歯科治療を理解した上で一連の歯科治療の流れを把握し、予診から管理指導までができるようになる

授業計画

授業題目	実習内容	到達目標
予診・診査	予診の意義、予診時の診査・検査、歯科診療用語、傷病名とその略称	予診の項目や受診内容、歯科診療用語、傷病名と略称について理解する
予診・診査	予診用器材の種類と名称、用途	各種診査器材の種類と名称、用途について理解する
X線撮影法	X線写真の意義、種類、撮影方法	レントゲン写真撮影の意義、写真の種類、撮影方法について理解する
歯髄の保存療法	歯髄覆罩・裏装(裏層)	歯髄覆罩・裏装(裏層)の目的、材料等について理解する
歯内療法	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:断髄法	断髄法の一連の流れを理解し使用器具器材の名称、用途について理解する
歯内療法	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:抜髄	抜髄の一連の流れを理解し使用器具器材の名称、用途について理解する
歯内療法	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:根管治療	根管治療の一連の流れを理解し使用器具器材の名称、用途について理解する
歯内療法	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:感染根管治療	根管治療と感染根管治療の違いを理解し一連の流れをと使用器具器材の名称、用途について理解する
歯内療法	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:根管充填	根管充填の一連の流れを理解し使用器具器材の名称、用途について理解する
歯科保存	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:成形修復	成形修復処置に伴う窩洞、充填、研磨までの一連の流れを理解し使用器具の用途、材料の取り扱いについて理解する
歯科保存と歯科補綴	保存領域における歯科疾患と治療法の概要	インレー修復の窩洞、連合印象採得、咬合採得、仮封、合着までの一連の流れを理解し使用器具の用途、材料取り扱いについて理解する
歯科保存と歯科補綴	保存領域における歯科疾患と治療法の概要:クラウンセット	クラウンセット適応の窩洞分類、コアセットまでの連合印象採得、咬合採得、セットまでの一連の流れを理解し使用器具の用途、材料取り扱いについて理解する
歯周療法	歯周治療の概要	歯周治療の流れと歯周治療の内容について理解する
口腔外科	口腔外科領域における歯科疾患と治療法の概要:普通拔牙	普通拔牙における一連の流れを理解し使用器具器材の名称、用途、薬剤について理解する
義歯補綴	欠損部位への義歯補綴	欠損部位への義歯補綴作成から装着までの一連の流れと使用器具・器材の名称・用途について理解する 義歯補綴装着後の患者指導について理解する

評価方法 実習手帳、実習記録、実習態度等により総合的評価を行う

実務経験

・本科目は、歯科医師・歯科衛生士として実務経験のある教員による実習である

科目名	臨床実習:鹿児島大学病院
授業形態	実習
開講時期	3年前期・3年後期
時間数・単位	臨床・臨床実習時間数:3年間で1076時間 23単位

学習目標 2年次の臨床実習で学んだことの理解を深め、有病者・高齢者・障害者治療の内容と対応法について理解を深める

授業計画

授業題目	授業内容	到達目標
保存科	保存修復・歯内療法の概要と有病者への対応	成形修復・根管治療・根管充填等における一連の流れ、使用材料や器具器材の名称と用途について理解する
歯周病科	歯周治療の流れ、歯周外科処置	歯周治療の流れと歯周治療の内容について理解する。歯周外科手術における術式、使用器具器材、患者説明や術前、術中、術後の全身状態の把握の仕方について学ぶ
冠・ブリッジ・義歯補綴科	補綴治療の流れ、補綴物・義歯装着患者へのメンテナンス	各種補綴物や義歯の作製課程や使用器具器材の名称・用途等、患者指導、口腔内管理法について理解する
小児歯科	小児の齲蝕治療・咬合誘導、受診患者へのメンテナンス	小児の歯科疾患の治療の概要と咬合誘導や小児歯科受診患者への定期検診について理解する
口腔保健科	齲蝕・歯周予防処置、矯正科・口腔外科・病棟患者への口腔保健管理	フッ化物塗布・小窩裂溝充填法の術式、使用器具器材、患者指導について理解する。矯正科・口腔外科受診患者、入院患者への口腔内管理の仕方を学ぶ
口腔外科/口腔顎顔面外科	口腔外科小手術、手指消毒と手術野の消毒、感染防止対策	口腔外科小手術の概要について学ぶ。手術前・手術中・手術後の感染防止対策について学ぶ
手術室	口腔外科手術の見学	手指消毒法、清潔・不潔について理解する。全身麻酔から手術終了迄の一連の流れと他職種との連携について学ぶ
病棟	口腔内管理法、入院患者のケア	術前、術後の口腔内管理法について学ぶ。患者へのケアの(身体的・精神的)仕方について学ぶ

評価方法 実習手帳、実習記録、実習態度等により総括的評価を行う

実務経験

・本科目は、歯科医師・歯科衛生士として実務経験のある教員による実習である

科目名	臨床・臨床実習:クリア矯正歯科・山形矯正歯科医院・アクア矯正歯科
授業形態	実習
開講時期	2年後期 / 3年前期・3年後期
時間数・単位	臨床・臨床実習時間数:3年間で1076時間 23単位

学習目標 矯正専門歯科医院において矯正歯科の特性を知り矯正の概要について学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	矯正治療適用疾患と流れ	矯正治療の適用疾患と治療の流れ	疾患別に於じた矯正治療の過程や概要について理解する
2	矯正装置	矯正装置の名称、使用器具の名称と用途	疾患別の矯正装置の用途、器具の名称と用途について理解する
3	矯正歯科における歯科衛生士	歯科衛生士の役割	矯正歯科における歯科衛生士の役割について理解する
4	患者教育	各治療過程における患者教育	各治療過程における患者教育の実際について理解する

評価方法 実習記録、実習態度、実習評価などにより総括的評価を行う

実務経験

・本科目は、歯科医師・歯科衛生士として実務経験のある教員による実習である

科目名	臨床・臨床実習:たんぼぼこども歯科・きんじょう歯科小児歯科クリニック
授業形態	実習
開講時期	2年後期 / 3年前期・3年後期
時間数・単位	臨床・臨床実習時間数:3年間で1076時間 23単位

学習目標 小児専門歯科医院において歯科の特性を知り、小児の発達段階に応じた対応法や援助法について学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	小児の歯科疾患と治療の流れ	小児の歯科治療の適用と治療の流れ	小児の齲蝕治療や小手術等の一連の流れや概要について理解する
2	予防処置と定期検診	予防処置の内容、方法、定期検診での内容	予防処置や定期検診の内容及び方法について理解する
3	小児歯科における歯科衛生士	歯科衛生士の役割	小児歯科における歯科衛生士の役割について理解する
4	患者教育	小児や保護者に対する患者教育	各治療過程における患者教育の実際について理解する

評価方法 実習記録、実習態度、実習評価などにより総括的評価を行う

実務経験

・本科目は、歯科医師・歯科衛生士として実務経験のある教員による実習である

科目名	臨床・臨床実習:西千石
授業形態	実習
開講時期	3年前期・3年後期
時間数・単位	臨床・臨床実習時間数:3年間で1076時間 23単位

学習目標 介護老人保健施設に入所されている高齢者の状態を知り、個々に応じた適切な援助法について学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	高齢者の特徴	高齢者の身体的、精神的、心理的特徴	高齢者の身体的、精神的、心理的特徴を理解し個々に応じた援助の方法について理解する
2	認知症の患者の理解	認知症の患者の理解と援助	認知症患者の特徴を踏まえた上で個々に応じた援助の方法について理解する
3	生活援助	入所者の生活援助	入所者の生活援助全般について学ぶ
4	高齢者とのコミュニケーション	高齢者とのコミュニケーションの実際	高齢者とコミュニケーションをはかる
5	口腔ケア	口腔ケアの実際	口腔ケアの実際について学ぶ

評価方法 実習記録、実習態度、実習評価などにより総括的評価を行う

実務経験

・本科目は、介護福祉士として実務経験のある教員による実習である

科目名	臨床・臨地実習:ときわの家
授業形態	実習
開講時期	3年前期・3年後期
時間数・単位	臨床・臨地実習時間数:3年間で1076時間 23単位

学習目標 知的障害者施設に入所されている方の生活背景を理解し、個々に応じた適切な援助法について学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	知的障害児(者)の理解	障害児(者)の身体的、精神的、心理的特徴、生活背景	障害児(者)の身体的、精神的、心理的特徴を理解し生活背景を知り個々に応じた援助の方法について理解する
2	知的障害児(者)への関わり方	知的障害児(者)への関わり方	施設職員の方々の障害児(者)への関わり方について理解する
3	知的障害児(者)の口腔内	障害の種類と口腔内の特徴	障害の種類と口腔内の特徴について理解する
4	知的障害児(者)への口腔衛生指導	知的障害児(者)の口腔内の特徴と口腔衛生指導	知的障害児(者)にみられる口腔内の特徴と口腔衛生指導法について理解する

評価方法 実習記録、実習態度、実習評価などにより総合的評価を行う

実務経験

・本科目は、社会福祉士として実務経験のある教員による実習である

科目名	臨床・臨地実習:あさひが丘学園
授業形態	実習
開講時期	3年前期・3年後期
時間数・単位	臨床・臨地実習時間数:3年間で1076時間 23単位

学習目標 知的障害児(者)の身体的ならびに口腔内の特徴を理解した上で、一人一人に応じた口腔保健管理の仕方を学び適切な援助ができる能力を養う

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	障害児(者)の人権、対応	障害児(者)の人権、人格の尊重、対応	障害児(者)の人権、人格を尊重した対応の仕方を学ぶ
2	身体、口腔内の特徴	障害児(者)の身体、口腔の特徴	知的障害児(者)の身体、口腔の特徴について理解する
3	口腔機能	口腔機能の障害とケア	口腔機能の障害に対するケアの意義や方法について理解する
4	障害児(者)の口腔ケア	障害児(者)への口腔ケアの実際	知的障害児(者)への口腔ケアの実際について学ぶ
5	障害児(者)とのコミュニケーション	障害児(者)とのコミュニケーション	知的障害児(者)とのコミュニケーションをはかる
6	服用薬剤と用途	障害児(者)の服用薬剤と用途	知的障害児(者)の服用薬剤の種類、用途について理解する
7	他職種との連携	各専門職種との連携	知的障害児(者)施設における各専門職種間の連携について理解する

評価方法 実習記録、実習態度、実習評価などにより総合的評価を行う

実務経験

・本科目は、社会福祉士として実務経験のある教員による実習である

科目名	臨床・臨地実習:保健所・保健センター
授業形態	実習
開講時期	3年前期・3年後期
時間数・単位	臨床・臨地実習時間数:3年間で1076時間 23単位

学習目標 保健所・保健センターにおける地域歯科保健活動の現状を知り、歯科保健業務における歯科衛生士の役割と関連職種との連携について学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	保健所・保健センターの概要	保健所・保健センターの組織、機能	保健所・保健センターの組織、機能と活動について理解する
2	歯科衛生士の活動	歯科衛生士の活動内容	保健所・保健センターにおける歯科衛生士の役割や活動内容について理解する
3	健康相談・健康診査	健康相談、健康診査の実際	健康相談、健康診査の実際を見学し対象者の保健管理について理解する
4	歯科衛生士と関連職種	関連職種との連携	歯科衛生士と関連職種との連携について理解する
5	妊産婦健康相談	妊産婦健康相談の実際	妊産婦健康相談の概要、来所者の理解、保健指導、他関連職種との連携について理解する
6	1歳6ヶ月児健康診査	1歳6ヶ月児健康診査の実際	1歳6ヶ月児健康診査の概要、来所者の理解、保健指導、他関連職種との連携について理解する

評価方法 実習記録、実習態度、実習評価などにより総合的評価を行う

実務経験

・本科目は、歯科医師・歯科衛生士として実務経験のある教員による実習である